

國學院大學學術情報リポジトリ

大成教禊教『禊教新誌』『禊教会雑誌』『みそ、き』：解題・目次

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 悠之介, 萩原, 稔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000623

大成教禊教『禊教新誌』『禊教会雑誌』『みそゝき』 解題・目次

木村 悠之介・萩原 稔

はじめに

「大成教禊教」とは、1879（明治12）年を画期に大きく3つの流れへ分かれていった井上正鐵門中（吐苦加美講・身禊講社・禊教社）の後身のうち、坂田安治を初代管長とする神道教派「禊教」ではなく、平山省齋を初代管長とする教派である「大成教」内の中間的包括組織として「禊教」を名乗った人々を指す¹。この大成教禊教が中心となって大成教本部の雑誌として発行したのが『みそゝき』であり、すでに萩原が第50～52号の目次を紹介している²ものの、発見されていた号が少ないこともあり、注目されてきたとは言いがたい史料だった³。しかしこの度、金光図書館および木村の所蔵分を併せ、第23号（および存在した可能性のある第53号）を除くほぼ全ての『みそゝき』を確認できた⁴ため、東大明治新聞雑誌文庫に断続的に残る継続前誌の『禊教新誌』『けいきょう禊教会雑誌』⁵とともに解題・目次を作成した。

解題は、第1節第1項「発刊・改題から途絶まで」と第3節「雑誌の特徴と意義」を木村が、第1節第2項「発行に携わった人々」と第2節「記事に見る大成教の活動についてのトピック」を萩原が最初に執筆したうえで、相互の討議により各部分の記述を補った。

1. 総論

(1) 発刊・改題から途絶まで

1888（明治21）年6月、『禊教新誌』が発刊された（第2号からは通信省認可の表示も付いた⁶）。「禊教新誌項目」として、次のような内容が掲げられている。

社説	我カ神道ノ真理ヲ詳明シ以テ天下ノ人ヲシテ其適従スル所ヲ知ラシム
講録	禊教ノ祖師井上正鐵大人著スル所ノ唯一問答書ニツヒテ各教師カ講義セラレタルモノヲ載ス
問答	宗教ノ宗教タル所以ノ真理ヲ掲明センカ為メニ其要点ニツヒテ問題ヲ設ケ以テ研究ノ便ニ供ス
寄書	宗教ニ関スル記事論説等ヲ載ス

発行所は東京日本橋区南茅場町5番地の身禊本社（翌年に禊教村越本院へ改称）で、発行人は村越鐵善だった。第1号の編集人は福田長之門下の木谷寅之助が務めており、村越門下のみの雑誌ではなかったようだが、第2号からは、発行所の住所はそのままで名義が禊教新誌社、発行人と印刷人が村越鐵道、編集人が村越門下の中野了随に変わり、村越門下の存在感が強まった。『禊教新誌』は、現在確認できる11月の第5号よりも後の号で、住所を禊教総本院事務所（小石川区原町44番地）⁷に移してから休刊したと思われる。

翌1889年12月には、「大成教禊教総本院事務所 禊教会」名義⁸で『禊教会雑誌』が発刊

された。「禊教会雑誌主意」は以下の通りである。

本誌は 禊教会に中立して公平無私を主義とす

本誌は 敬神尊王愛国を以主義とす故に神明に帰依し之を信仰し 皇祖皇宗の神霊を恭敬す

本誌は 万世一系世界無比の

天皇を尊ひ帝室を敬ひ至誠真忠以て擁護尽力せんとす

本誌は 本邦は東洋の一小島と雖とも⁹天祖の關き玉ふ以来徳化を以て治め来りたる
神国也故に固有の元気を鼓舞し国粹保存を奨励し国家の長久を期せんとす

本誌は 右の主義なるを以て苟も

神威を黷し国体に傷つけ 帝室に不敬の思想を懐く者ありと聞は用捨なく筆誅して無
氣力者の迷夢を醒さんとす

本誌は 名臣功士孝子義僕貞女節婦の美德を宣揚せんため本会の旨趣と併せて遺漏なく
社会に告んとす

発刊時には「目下休刊中なる禊教新誌社と禊教会雑誌の発行所の地名番地同じ所なれど雑誌の組織上に付ては新誌社と一切関係ありません」という注意が出ているが（第1号）、禊教新誌社へ前金を払い込んだ人々には『禊教会雑誌』で代用するともいい（第2号）、事実上の継続後誌として位置づけうる。大成教禊教が1883年9月に禊教同盟団結釐正委員を置き、禊教各教会を団結させる方法を検討してきた¹⁰ことからすれば、一部の有志による事業だった『禊教新誌』を、『禊教会雑誌』という大成教禊教全体の事業に切り替えることを明示する意図があったといえよう¹¹。『禊教会雑誌』では、総本院の加藤直鐵が発行人・編集人を兼ね、福田本院の福田長之が印刷人となり、通信委員として、東宮本院の榎本宗碩・江島喜兵衛、下総谷貝分院の渡辺得太郎、同川尻分院の橋本元一郎（直言子）、下野亀岡分院の芝田敬明、麻生本院の麻生守¹²・古莊正敬、小木本院の田屋鶴、小幡本院の石原庫四郎・佐東藤吉、独立通信の渡辺長吉、村越本院の村越鐵道・中野了隨が名を連ねた（第1号）。

さらに『禊教会雑誌』は1890年11月の第12号から『みそゝき』に改題した（今度は号数が引き継がれた）。「神道みそゝき雑誌の社則」によれば『みそゝき』は禊教会だけではなく「本教」つまり大成教全体の「機関」とされ、「大成教示達類は至急を要するの外一切雑誌に記載するものなり」と但し書きがあるように、教内における情報伝達の主たる手段としての活用が目されたことが分かる（実際、第31号では布教の拡張に関する意見募集が示達で行われ、その後の誌上に意見が寄せられた）。発行所の名義も大成教本部の「修道館」となった。

他方、「神道の大典にして人心を観念せしむる神業の御名」だと説明された誌名の「みそゝき」が象徴するように、中心は依然として禊教会で、編集は引きつづき加藤・福田が担った。加藤は「改題の理由」において「禊祓解除の神業」を「本教」のものとして見做しており、禊教会が伝承してきた行法を、自称「信徒猶百二十余万人」とする大成教傘下の他教会にも共有させようという意図が窺える（以上、第12号）。実際、1892年9月には管長が「大成教所属の教会に向て禊祓神業を勧誘する事」の許可を出した（第34号）。

1892年1月には、加藤の教務都合により翌2月から磯部武者五郎に編集名義を移し菟道春千代を補助員とするという話もあったものの、結局は「従前の通り」加藤のままになってい

る（第26、27号）。加藤は『禊教会雑誌』も合わせると丸3年にわたり大成教から「若干の保護金」をもらいつつ雑誌に従事しつづけたが、多額の負債が生じたため、1893年1月の第38号から発行人・編集人を田中一雄、印刷人を前藤左一に囑託した。しかし、加藤を惜しむ声は多く、田中への交代時には過去の記事を誤って再掲載するトラブルも生じた（第37～39号）。結局、田中・前藤による雑誌運営に対し加藤は「記事体面共に大に改良を加ふるの必要」を感じたといい、同年10月、福田長之が発行人・印刷人、中野了随が再び編集人となった際、福田の意を受けて「黒幕」としての原稿校閲に就任した（第47号）。

今のところ確認できる『みそゝき』最後の号は、1894年3月発行の第52号である。実行教の雑誌『惟一』は『みそゝき』が「五月頃中絶の姿とな」ったといい¹³、さらに大成教の会計報告によれば、それまで90円だった『みそゝき』への補助金が1894年には28円40銭という中途半端な額になっている¹⁴。均等に割ると4冊弱が発行されたことになるため、4月末に第53号が出た可能性も考えうるだろう¹⁵。いずれにせよ、この頃に激しくなった蓮門教会パッシング¹⁶のあおりを受け、刊行の継続が難しくなったものと思われる。

このように、禊教会の村越門下を中心に始まった『禊教新誌』は、禊教会全体の『禊教会雑誌』、さらに大成教全体の『みそゝき』へと拡大してから、終焉に至ったのである。

印刷所は、『禊教新誌』が錦巷印刷製本所（錦巷堂）、『禊教会雑誌』第1号が忠愛社、同第2号から『みそゝき』までは秀英舎だった。売捌所としては、『禊教新誌』では鶴鳴堂、『みそゝき』では大阪の三吉教会（第13号）、東京の田中甚左衛門、茨城の初見政吉、静岡の静陵館（第14号）、上州の博書堂・川端庄三郎（第16号）といった名前が挙げられている。

なお、本稿で扱った3誌以外にも、大成教禊教内では1891年、麻生本院の親議会が『親議之友』¹⁷、村越本院の大日本禊教青年会が『禊教青年会雑誌』¹⁸を発行していた。特に『禊教青年会雑誌』は本部の皇道青年会（皇道会）と対立し、その結果、禊教内部で発行される新聞雑誌が「本教の体面を毀損する文章」を掲載した場合は処分する、という「議定」の宣言を招いており（第17、19号）、興味深い。

（2）発行に携わった人々

本稿の3誌に関わる大成教禊教内の人物を概観しておこう。

まず、『禊教新誌』第1号の発行人・村越鐵善（1825～1908）は、1840（天保11）年に井上正鐵（1790～1849）が梅田神明宮で開教した直後からの直門で有力な後援者の村越正久（1800～1875）の子であり、井上正鐵に対面したことがある最後の世代であった。村越本院・第二教院長であり、1894（明治27）年に大成教第2代管長の磯部最信（1821～1898、含翠庵主人、含翠道人）が解任された後には、東宮千別（1833～1897）と共に管長事務取扱に就任している。

『禊教新誌』第1号編集人の木谷寅之助（1857～1932）は、宮津藩本荘家の家令だった福田長之の門下であり、心学参前舎幹部の川尻義祐（1843～1910、宝岑）や江戸文学者の三田村鳶魚とも親しかった¹⁹。師の福田は『禊教会雑誌』や『みそゝき』を支えている。

『禊教新誌』第2号から村越鐵善の後任として発行人になった村越鐵道は未詳だが、同じく編集人となり、後に『みそゝき』の編集にも携わる中野了随（1856～？、篁堂、攪迷道人、自由狂人、竹葉舎晋升）は鐵善の娘婿である。中野は明治10年代には秩父で教員をしつつ自由党の演説弁士を勤めて多くの著作を残しており、文筆や弁論に秀でた人物であった²⁰。また、1893年の末に「古本商」の廃業と「書籍出版業」の継続を告知しており（第49号）、こ

の出版業は、『自由灯』など中野の著作を多く発行し、『禊教新誌』の売捌所だった鶴鳴堂出版を指すと思われる。屋号「鶴鳴堂」自体が中野の「攪迷道人」と同じく“革命”に掛かっているほか、鶴鳴堂の出版人は後に中野の妻となる高橋種（村越鐵善の長女種子）²¹で、高橋による1887年の編著『闇夜の灯火』に寄せた序文では、中野自身も「時に鶴鳴堂編集局の楼上に朝寝して」と述べていた（『みそゝき』第49号に転載）。さらに、この鶴鳴堂から1887年には村越や中野などの序がある歌舞伎脚本仕立ての井上正鐵伝（川尻義祐『万世薫梅田神垣』）が刊行されており、同脚本は翌1888年1月、市村座再築の開場式にあたり九代目市川団十郎主演で『新開場梅田神垣』として上演された²²。『禊教新誌』発行直前における禊教の盛隆を反映する興業だったといえよう。

『禊教会雑誌』と『みそゝき』の発行に尽力しつづけた加藤直鐵（魯堂居士、無学道人）は、井上正鐵直門の加藤鐵秀の子であり、正鐵の三女法子の夫となって、正鐵の妻・安西男也（おなり）を扶養した遺族の中心人物であった。文筆や演説ができて教祖の親族であるという立場は大成教禊教においては重要な地位で、磯部最信の出張中には管長代理とされたほか（第20号）、1892年には「庶務課長兼禊教監督」になっている（第37号）。しかし、『みそゝき』廃刊翌年の1895年には、大成教を離れて、坂田鐵安らが1879年に創建した「井上神社」の社掌に就任している²³。この職も祭神の親族でもあり適任なのだが、その立場は禊教（坂田安治管長）の傘下であるという位置づけは否めず、大成教禊教の衰微と対応したものであった。なお、宮内省や帝大で系譜や史料の編纂を行ったことで知られる国学者の鈴木真年（天鏡道士）は1860年に安西一方の娘・信子と結婚した禊教師で、加藤とは義理の兄弟にあたる²⁴。

一時期『みそゝき』の編集を務めた田中一雄は、旧会津藩士でドイツ語学校を卒業後ベルリンに留学、帰国して監獄教誨師となった人物だった。1891年に禊教の修行を行ったことで感銘を受け、編集を受任したと紹介されている（第37号）。

編集担当になる話も出たが立ち消えになった磯部武者五郎（1865～1911、東海学人、蒼岬）は、磯部最信の子であるとともに、第1次『会通雑誌』（後述）の最終号や第2次『会通雑誌』²⁵にも寄稿する論客だった。1890年1月には会通雑誌社を売捌大元とする『神道興教論』を大成教「教末」の立場で上梓し、刊行と同月には「教務編纂囑託」になっている²⁶。そして、1893年に大成教内で同書の再版が求められた際には新たな著述『神道要領』の刊行を計画し、「近日常成」として「第一篇総論○国教論○神道ノ現況○神道振興ノ意見○第二篇神道ノ真理○造化三神八百万神○靈魂○人類○万物○第三篇神道ノ道德○善悪誠心○彝倫○国家○禊、解除大祓○祭記○第四篇小歴史○神道国家ノ小歴史」という内容を広告した（『みそゝき』第42～48号）²⁷。ただし実際の刊行は確認できていない。他には磯部蒼岬の名義で詩文添削の広告も出している（第12、13号）。磯部については第2～3節でも触れたい。

磯部と同時に補助員の候補とされていた菟道春千代（色葉山人、花王居士）は唱歌集の編纂で知られており²⁸、本莊宗武を会長とする雅学協会の主幹であった。『みそゝき』誌上にも菟道による『新撰軍歌集』や雅学協会の広告が出ている。なお、1905年には『食養新聞』を発刊するとともに帝国食育会を率いたという²⁹。

2. 記事に見る大成教の活動についてのトピック

(1) 傘下教会の勢力

『みそゝき』による1892（明治25）年12月の雑報「大成教所属教会と信徒」には、教会所

233か所、信徒119万6444人、うち教師5098人、という記事がある（第37号）。ほぼ同時期の1890年の「大成教禊教各教会位置及教職員数一覧表」³⁰という記録では、大成教禊教の教師は1039人とあり、大成教の教師の約五分の一は大成教禊教の教師であったことになろう。また、1893年2月の雑報「本教所属教職一覧表」の「大教正の部」に掲げられた3人のうち2人は禊教の東宮千別と村越鐵善であり、もう一人は蓮門教の島村光津である。「権大教正の部」の8人は禊教の横尾信守、村越鐵久、福田鐵知、心学の川尻義祐、岡本市郎兵衛、苗島教会の齋藤多須久、多賀教会の小林泉、所属の表示がない棚橋碌翁であった（第39号）。すなわち、大成教の最上級の教導職11人のうち、5人は禊教であり、2人は心学の教師だったが、心学の川尻義祐は先述の『万世薫梅田神垣』著述に見られるように禊教師も兼ねており³¹、半数以上は禊教の教師であったといつてよい。

蓮門教については、1890年11月の『みそ、き』初号（第12号）に、宗教学・心理学の観点から「御神水」を擁護する「祈祷の利益と御神水」という寄稿が掲載されている。蓮門教において「神水」の授与が主要な活動であったことは知られており³²、この記事はその活動を擁護するものである。また、文面に直接には記されていないが、大成教にとって「本教」の「禊禊解除の神業」とされる禊教の「祓修行」においても「神水」の行事は重要な秘儀として存在した³³。勢力を伸ばしていながら来歴のはっきりしない蓮門教の教義や行事に、禊教の行法や作法を注入して、より神道としての性質を明確化していこうとした可能性もある。そして翌月には、島村光津が8年前（1882年10月）に初めて教導職試補に補任される際に内務卿に提出された、大成教管長平山省齋からの「教導職試補申付候儀伺」の文面が掲載され、「神道女教師之乏き折柄」に平易な言葉で女性を教化するのにふさわしい人物である旨が記されている（第13号）。

また、1892年12月の雑報「神道教派の独立」では、日本新聞の引用として、「神道本部直轄丸山金光天理の三教会、大成教本部直轄蓮門教」が独立を計画中で「早晚神道中新に三四の管長を立るに至るべし」と紹介している（第37号）。さらに、蓮門教については「旧所管の本教に向つては永世義金上納の約を為す」とあり、急激な教勢の伸長により独立も視野に入りながらも、今後の資金源としても期待されていたことが分かる。

他方、神道教派と神社の相違点を明確化するような事件もあった。その契機は、「水神教会」が東京府南葛飾郡寺島村に第三分院を建設するにあたり、神社である「水天宮」に類似した守札を作り、信者以外の一般人にも配布して建設費を募集しようとしたことだった。1892年11月には、水神教会の教会長が降格処分を受けた記事がある（第36号）。この事件に関連して、1893年2月には、内務省社寺局長より大成教管長宛の通知文（発第2号、1月24日付）が掲載された（第39号）。それには「神道布教ノ要ハ各其主祭スル所ノ神徳ヲ発揚シ人心ヲ感化スルニ在レハ教院教会所講社説教所等ノ室内ニ神床ヲ設ケ主神ヲ鎮祭シ其教徒若クハ信徒ニ限り拝礼セシムルハ元来差支無之ト雖トモ平素衆庶ニ参拝セシメ又ハ一般へ守札ヲ配布スル等神社ニ紛ラハ敷所為ハ不相成筈ニ有之」とあり、教派の教会等は室内で信者だけが参拝するものであり、一般人の参拝や守り札の配布は禁止である旨が示されている。さらに「矮陋ノ町屋等ニ教院教会所講社説教所等ノ標札ヲ掲ケ僅ニ其名義ヲ有スルカ為メニ神床ヲ設ケ主神ヲ鎮祭シ教徒若クハ信徒ニ托シテ庶人ノ参拝ヲ招誘スル等ノ心得違無之様」とあり、教会所等の体裁にまで踏み込んでいる。

(2) 社会事業への積極性

1891(明治24)年5月には、大阪の真理教会長権大教正池上雪江の訃報が掲載されて弔状が下付され、本部からも特段の対応がなされている(第18号)。池上は1883年に大阪市で天神裏歓楽街に増えていた非行少年たちに実学を習得させる活動を行ったことで知られており、これは感化院の嚆矢とされている³⁴。また、大成教全体としては監獄教誨をそれ以前から行っており、3誌とも記事が見られた。例えば1891年1月には鍛冶橋監獄で月8回、宇都宮監獄で月末の説教を行っており(第13号)、同年末には警視総監から謝状が出た(第26号)。他には、久方教院の信徒が中心になって、千葉県香取郡と匝瑳郡の境界となっている川に「両郡橋」を架橋して道路も建設する事業を行い、1891年11月に竣工式を行って、関係者一同へ管長より表彰状を授与したことが報じられている(第25号)³⁵。

藤本頼生は、“監獄教誨事業に密接な関わりを持つ石門心学が編入されてできた”点に大成教の特質を見出し、平山省斎による監獄教誨が(厳密な嚆矢ではないが)先駆的だったことを指摘している。さらに、前述した磯部武者五郎の『神道興教論』が神道教師による「慈善会勸化院保護会社慈善学校教育ニ関スル会社学校普通学校貧院病院救済院」の必要に言及していることから、“この書は明治二十三年に発行されたものであるため、池上自身が直接的な影響を受けたものかどうかは不明であるが、当時の大成教の社会事業に対する考え方を窺うことができ、池上の感化院との関わりを考える上で参考となるものである”と付言する³⁶。磯部が東京専門学校を卒業するのは1889年で、議論の場に出てくるのは同年末と思われるため(12月15日発行の『禊教会雑誌』第1号など³⁷)、池上が磯部から影響を受けたのではなく、磯部が池上や平山らの社会事業を前提に、それを「神道教」全体に広げることを主張したと考えるべきだろう。後述するように、磯部は1903年に東京の大成教本部へ設置された私立「素山学校」³⁸の初代校長となっており、明らかな連続性を窺うことができる。

3. 雑誌の特徴と意義

(1) 教派神道諸派における洋製本雑誌の中心

神道界における早期の新聞・雑誌としては、1876(明治9)年の神道事務局による『開知新聞』、実質的にその役割を継承した1885年の『会通雑誌』がよく知られている。その後、『会通雑誌』は1890年に『随在天神』と改題し、帝国議会関連の記事を多く掲載するなど、神祇官興復運動に邁進していった(1896年に『皇国』と改題)³⁹。『全国神職会会報』発刊は1899年のことである。この間の動きとして、他には1889年発刊の『皇典講究所講演』など国学系の雑誌が取り上げられてきたものの、当時少なからぬ雑誌を発行した近代の教派神道諸派については、金光教や天理教が文書布教の歴史をまとめ⁴⁰、萩原稔が坂田門下禊教による『小戸廻中瀬』(1890年発刊)、『天津菅曾』(1898年発刊)、『禊教新誌』(1901年発刊)などの諸雑誌に、武田幸也が神官教の『教林』(1893年発刊)や神宮奉斎会の『祖国』『養徳』に触れ⁴¹、今井功一が実行教による諸雑誌のうち『惟一』(1894年発刊)の目次を作成した⁴²ことが目立つ程度で、各教派を見渡す形での体系的な把握はいまだ行われていない。

神道雑誌の歴史は、『教院講録』のような講義録に始まる。後の教派神道諸派につながる雑誌としては1877年の扶桑教会による『不二叢説』⁴³が先駆的で、すでに雑報欄も有していた。そこから1882年に別派特立が増える前後に雑誌刊行も盛んになり、実行教会は早くも4月に『実行雑誌』を発刊、2年後まで断続的に雑誌を出した⁴⁴。大成教では同1882年11月、伊藤

房吉を社長とする千葉県木更津の「大成教誌社」が『大成教誌』を発刊している⁴⁵。他には1886年発刊の『大社教雑誌』、神宮教院内報道局による『教報』などがあつた。

上記のうち『不二叢説』『実行雑誌』『大社教雑誌』が洋紙和装の体裁だったのに対し、『大成教誌』は丁ではなく頁による組版を早くも採用しており、さらに1888年発刊の『禊教新誌』が有した月刊50～80頁および広告という分量は当時類例がなかった（『会通雑誌』ですら、活字が小さいとはいえ月3回16頁、合計48頁である）。大成教、特に禊教会こそが、本格的な洋装本神道雑誌の先駆けになったと言えよう。

この後、1889年2月に長野県・神宮青年教会（神宮教）の『光華叢誌』、1890年に神道本局の『神道』が登場したほか、1893～95年に神宮教の『教林』、実行教の『惟一』、神道本局の『まこと』が相次いで発刊され、神道をめぐる議論の場を形成していく。

そうしたなかで『みそゝき』は、1890年の第2次『会通雑誌』廃刊に際し同誌に連載されていた原稿「天地剖判之説」の掲載依頼を引き受けるなど（第18号）、1893年以前における諸雑誌の空白を埋めるような立ち位置を有していた。他教派との関係では、神習教管長・芳村正乗が自身の著述『宝祚明鑑』に関する宣伝文の掲載を依頼したほか（第16号）、実行教管長・柴田礼一が読者に名を連ね（第25号）、1892年の久米邦武筆禍事件⁴⁶に際しては久米を非難する和歌を寄せている（第30号）。

また、教派神道諸派に関する報道自体も充実しており、例えば“神道の代表がなぜ教派神道のひとつの実行教であったのかは不明”とされてきた1893年のシカゴ万国宗教会議⁴⁷について詳しいことが分かる。募集に際し柴田礼一は単独でいち早く渡航を決定したが、それは各教派の代表としてではなかった（第36号）。大会側は磯部最信と芳村正乗を指名したものの両名とも辞退しており、磯部の場合は老齢で渡航に耐えられないことが理由だった（第42～44号）。実行教以外も候補に挙がったうえで、結果的に単独になったのである。

（2）神道改革の起点

1890（明治23）年に『禊教会雑誌』が大成教全体の『みそゝき』へ改題した第12号は、前述の寄稿「祈祷の利益と御神水」に続けて、編集者による「蓮門教旨の大要」を掲載していた。「新聞紙上に無根の節を流布し教会の体面を傷けんとするもの」に反論したこの記事は「日本教の神道を海外に輝かさん」という結論であり、所属教会に対する外部からの蔑視に対し、「神道」の主張が求められたようだ。

同じく「神道」なるものへの視座をめぐって着目すべきは、静岡県の信徒・戸塚弥三治が1891年、「みそゝきは大成教の機関なり大成教会の共に与に神道を研究すべき学校なり否只然るに非ず大成教会の各得意の思想を陳列すべき共進会場なり」と述べ、禊教会・蓮門教会・多賀教会のどれが「神道の極所を穿ち」うるかは今後の問題だが、禊教を中心としつつ「他教の意を悟り己の足らざる所を補ふ」のが「教祖の執らるゝ所の主義」なのだと言及したことである（第20号）。

つまり大成教は、上述の蔑視に加え、井上順孝が分析したように典型的な“高坏モデル”の組織構造を持ち、“教団としての組織の統一性はもっとも弱い部類に属する”⁴⁸ために、特に平山省斎の死後、雑多な思想を持ち寄る「共進会場」（博覧会場）としての雑誌メディアにおいて、共通点としての「神道」を追求する必要があつたのだ⁴⁹。神道各派が会場を持ち回りで行った賢所遥拜式で、祭典後における演説者の多数を磯部ら大成教からの参加者が占

めていたことにも表れているように(第13~14号)、大成教は演説や雑誌刊行といった営為に、他教派よりも積極的に取り組んだ⁵⁰。1892年9月に管長が「神道学研究会」の開設を認めていることも(第34号)、「神道学」という言葉に対する当時の風当たり⁵¹を考えると興味深い。時期的には、これも久米邦武筆禍事件に対応した動きであろう。

外部からの目線との関連では、『禊教新誌』第1号の社説が「禊教ノ哲理」だったことをはじめ、哲学との関係が以前から意識されていたものの、『みそゝき』改題の頃には特にその必要が強まっていた。改題の理由を説明した加藤直鐵は、「学者を以て自任し或は吾は宗教に冷淡なりと公言する者」がいるなかで「神道は日本に興起したる宗教なりと云ふ事柄を詳論し一々学理上の観察を比較」すべきだと述べている(第12号)。これは、帝国大学総長の加藤弘之が神道非宗教を主張する演説で「登保加美」を「野鄙」と評した事件⁵²への対応を指しており、改題時の『みそゝき』には複数の加藤弘之批判が載った。

なかでも理論的支柱を提供したのが第1節で触れた磯部武者五郎であり、加藤に対し次のように反論している(第12号)。

博士は「トホカミ」講は野鄙だから止めろと云はれたるも〔…〕Formの野鄙なるを云ふか將た、Contentか野鄙なるか〔…〕何ぞ夫を指摘せざるや〔。〕且「トホカミ」講は維新前の名にして現今は禊教と公称し「トホカミ」講とは称せず〔。〕而して禊教の祓を唱へ、安心立命を得るは田夫野人と雖ども菩提樹下大悟の趣あり博士恐くは之を知らざるべし〔。〕且「トホカミ」講の名称を改め禊教と称し布教百般の組織を改革せしは博士の調査に遺漏せりと云はざるべからず

こう述べつつ「レリジオン」「宗教」に関する加藤の理解をも批判し、神道が「宗教」たりうると主張した。近代「宗教」としての「改革」が意識されはじめていたのである⁵³。

磯部は、『みそゝき』の続く号においても、帝大の哲学者・井上哲次郎を訪れた際の会話⁵⁴や、磯部が同誌を送った教育学者・谷本富からの返信を誌上に載せており(第13~14号)、学問との関係で大成教禊教を位置づけようという意図が明確だった。なお、『みそゝき』において「余曾て井上哲二郎君に語て曰く」とした内容(第19号)が、『日本国教大道叢誌』への寄稿時には「井上哲二郎君曾て余に語て曰く」と変更されたこともある⁵⁵。

磯部の活動は教内で効果を奏したらしく、群馬県の矢島庄五郎は、加藤弘之の発言を知ってから「煩悶」に陥ったものの「磯部先生」の説によって救われたと述べている(第15号)。この矢島は先述の戸塚弥三治と同じ第20号で、「ルーテル」による「宗教的革命」を引き合いに出しながら「神道」内部の「淘汰」を主張した。ただし、矢島が誌上で説いた種々の議論は「禊教々義の範囲」から外れるものだという反駁を地方教師から受け(第27号)、さらには『みそゝき』の記事全体が「学者社会」向けの「高尚」なものに過ぎるため「地方の信徒の多数」に適した雑誌を別に発行してほしいという要望も出た(第28号)。そのように、地方教師を中心とする大成教内の読者層に受け入れられたとは言いがたいものの、逆に1893年の『教林』以降、各教派のみならず神社・国学といった枠組みも越えて哲学方面にまで広がっていく神道改革論⁵⁶を準備したとは位置づけられよう。

そして磯部は外部的にも、1892年の『光華叢誌』では他教派の人間として珍しい名誉会員になったほか、『神道』『教林』『まこと』といった諸雑誌にも盛んに寄稿し、実行教の柴田

礼一と並んで神道改革論を主導した。さらに、日本弘道会の『日本弘道叢記』編集や、神宮奉斎会の『養徳』主筆を務め、神社・教派・国学にまたがる「神道同志会」の結成時は幹事になるなど、大成教という枠組みを越えて活躍していく。1905年に登場した神道界最大のメディア宗教運動『神風』に対する支援者でもあった⁵⁷。一方、1898年には大成教教務庁での「神道学術講談会」を斡旋した⁵⁸ほか、先述の素山学校では創立から1911年7月の死去まで校長を務めており⁵⁹、大成教の重役でもありつづけたことが分かる。

平山省齋没後の大成教は、高坏型の特性に蓮門教会騒動があいまって組織としての勢いが衰えていったことは否めず⁶⁰、諸教会を「宗教」概念によって整序しようとする神道改革論にしても、かえって自らの教勢を削ぐ諸刃の剣となった。むしろ、『みそゝき』は大成教からの所属教会の独立を応援する節すら見られたのである（第28号）。しかし、神道雑誌文化の基盤形成、哲学などによる神道理解という側面から見れば、近代宗教としての神道史上において大きなインパクトを有したのではないだろうか。

『禊教新誌』『禊教会雑誌』『みそゝき』目次（次頁より） 凡例

【所蔵状況】

『禊教新誌』は明治文庫が第1～5号、『禊教会雑誌』は明治文庫が第1、2、5号、木村が第1号、『みそゝき』は木村が第12、14、17号、金光図書館が第13～22、24～52号、明治文庫が第16号、荻原が第50～52号を所蔵している。重複分の異同はない。欠号分（『禊教新誌』第6号以降、『禊教会雑誌』第3、4、6～11号、『みそゝき』第23号）については今後も検索していきたい。情報提供もお待ちしております。

【採録対象】

雑報欄なども含め実際の掲載順に記事を採録した。ただし、紙幅の都合により目次・奥付・趣旨（「禊教新誌項目」「禊教会雑誌主意」「神道みそゝき雑誌の社則」）・巻末広告・巻末社告は省き、次号予告など雑誌編集事務関係の記事は題がない限り省略した。文苑は漢詩や和歌の題名ではなく著者名・選者名のみを掲載順に採録した（同一号の文苑で人物が重複する場合や、歌会始の転載などは適宜省略した）。

【表記】

記事名については「(承前)」など丸括弧による補足を省いた。無題の記事や内容の説明が必要と判断した記事には適宜、亀甲括弧で内容を補記した。著者名は記事名の後に丸括弧で付記し、肩書・号・居住地・敬称を省略した。ただし、「故」「翁」「宗匠」「女史」などは残した。その他、明らかな誤植は修正した。また、目次と本文で記事名や著者名が異なる場合には原則的に本文を優先した。各号の頁数は表記分のみであり、実際は広告などが加わる。

『禊教新誌』 目次

<p>第1号 1888 (明治21)年6月28日発行 50頁 社説 禊教ノ哲理 講録 唯一問答書ノ中正直ノ章 (村越鐵善講述・木谷久善筆記) 問答 信神ノ目的如何ノ答 (村越鐵道) 寄書 今や禊教興起スヘキノ時到レリ (寸虫半魂齋致遠) / 述懐五首 (新井中恒)</p>	<p>勉強 / 深川身禊分社 / 身禊本社 / 弘道叢録 / 皇道義会通信誌 / 印度の虐政 / 正誤</p>
<p>第2号 1888 (明治21)年8月4日発行 76頁 禊教記事 大成教本部禊教職員及各社々長 社説 禊教の哲理 天命論 講録 禊教之本旨 (村越権大教正) 問答 信神ノ目的如何ノ答 (村越鐵道) 勸懲 孝子勝弥之伝 寄書 大日本禊教連合の趣意 (寸虫半魂齋致遠) / 大元を知られよ (大野良宣) / 祝 禊教新誌之発刊 併告 禊教社中諸君 (中野篁堂) 雑報 管長帰京 / 監獄所説教 / 常夜講 / 横尾社出張所 / 禊教熱心 / 横浜国教共進会 / 各社講義日 / 書籍寄贈 / [内部文明論も] / 正誤</p>	<p>第4号 1888 (明治21)年10月28日発行 77頁 社説 禊教の哲理 教育の原理 講録 天津罪 (村越権大教正) 問答 呪咀祈禱ノ答 (大野良宣) 勸懲 先師井上正鐵大人之逸事 / 烈婦阿勝之伝 教諭 神教は心鏡 (中野蝶翁) / 修行できたぶり (渡辺花笠) 寄書 咄々怪事咄々怪事 (中野篁堂) / 適帰する所を悟れ (戸塚塚桂庵) / 起てや禊教の友 (小柴亀次郎) / 禊教新誌の発刊を祝す (戸塚金太郎) / 祝詞 (新井愧三郎) / 感懐三首 (平山省齋) 雑報 大日本禊教連合 / 神祭式の率先 / 喪祭改式 / 無名の投書 / 正誤</p>
<p>第3号 1888 (明治21)年9月10日発行 68頁 禊教記事 禊教先哲 社説 禊教の哲理 人性論 講録 禊教之本旨 (村越権大教正) 問答 信神ノ目的如何ノ答 (村越鐵道) / 神道各教中云々ノ問 (高橋敬親) 勸懲 忠僕元助之伝 寄書 大日本禊教連合之大賛成 (中野篁堂) / 祝辞 (間宮勘次郎) / 祝 禊教新誌之発刊 (渡辺花笠) / 禊教の甘味 (続花庵蝶翁) 雑報 磐梯山の吊魂祭 / 旅費の献金 / 管長全快 / 村越権大教正 / 麻生少教正 / 各社出張所 / 分所の新築 / 分所の計画 / 修行人の申込 / 横浜国教共進会 / 大日本禊教連合事務所 / 各社の講義 / 修行繰込定日 / 修行の</p>	<p>第5号 1888 (明治21)年11月20日発行 80頁 社説 各宗教理の異同 講録 唯一神道 (村越権大教正) 問答 大道叢誌に就ての問答 (寸虫半魂齋致遠) 勸懲 烈婦阿勝之伝 教諭 信心の真々古止 (故村越正久) / 心のくるひ (木谷久善) 寄書 正誤 / 素山道人の詩を読みて感あり (畔柳資敬) / 大日本禊教連合の時機既に遅きを感じ全国三千九百余万の同胞兄弟姉妹諸君振つて速かに御賛成御加盟あらん事を偏に熱望す (中野篁堂) / 愚作三首 (戸塚茂正) / 正誤 雑報 両管長の派出 / 磐梯山の礼状 / 磐梯山死亡者姓名 / 本間禊教分社 / 大日本禊教連合事務所 / 禊教連合演説 / 禊教連合大会議 / 義捐金 / 禊教連合賛成員 / 正誤</p>
	<p>第6号以降 未発見</p>

『禊教会雑誌』 目次

<p>第1号 1889 (明治22)年12月15日発行 40頁 会説 禊教会雑誌発刊に就て 論説 復古原論 (長三洲) / スタイン氏講義摘録 / 禊教將來の指針 (本莊宗武) / 本教大成教会主義 (平山省齋) / 弁妄 (加藤直鐵) 寓言 一話 大晦の話 / 雷の話 / 蛙の話 / 河豚の話 / 願かけの話 / ま、にならぬ話 問答 教諭 禊教教導心得 (穂積耕雲・東宮千別) 寄書 独立と孤立 (弘法館主人) / 酒の害 (独処子) / 書生は国家の宝なり (魯堂居士) / 惟神の教 (東海学人) 雑録 立太子 / 伊勢両宮御遷宮 / 谷中祭典の概況 / 遠州地</p>	<p>方に於ての神道演説彙報 / 信女 / 貞婦 / 貞婦孝女 / 禊教青年会 / 祝辞 (平山省齋) / [今様歌二首] (磯部最信) / 祝文 (小木藤太郎) 文苑 (楳取素彦 / 金井之恭 / 平山省齋 / 千種有任 / 石山甚正 / 磯部最信 / 海上胤平 / 稲葉原隣 / 加藤直鐵 / 福田長之) 雑報 禊教演説会則 / 巡回 / 禊教青年会又々設立あらんとす / 大成教本部内規 / 禊教会教規 / 禊教会雑誌通信委員 / 一寸御注意 / 納会</p>
<p>第2号 1890 (明治23)年1月15日発行 32頁 年賀 (編集人) / 新嘗祭御儀式 会説 禊教本義 第一回 論説 宗教の主義目的 (丸山作楽講演・加藤直鐵筆記) /</p>	

宗教の主義目的 (東海学人) / 弁妄 (加藤直鐵)	うそから出た誠の話 (加藤政五郎) / 足ることを知らざる話 (同左) / 花見の一言 (竹洲生)
寓言 話 夢の話 / 川越の話 / 心の話 / 女房の話 / 嘆息の話 / 夫婦相性の話 / 蜘蛛の話	問 (竹洲生 / 梅園耕夫 / 駒の宮正明)
問答 答 第一号の問に対して (直言子 / 春俊生) / 三種の穢びと仰られ云々 (たのみ)	小説美談 一夫一妓問答の夢 (江努貴登生)
教諭 教話 (小木藤太郎)	寄書 世の改良論者に告げ併せて余と同感諸士に謀る (茅海散士) / 妄信者に告ぐ (北村政男) / 禊教会雑誌の発刊を祝す (日下部松之助) / 北村君に謝し併せて同感の士に告ぐ (独処士)
寄書 禊教会雑誌の発刊を祝す (北村政男) / 禊教会雑誌を読み聊か禊教信徒に告ぐ (渡辺得太郎) / 禊教会雑誌の発行を祝し併せて同朋諸君に告ぐ (竹洲生) / 禊教信徒諸君に向て望む所あり (独処士)	皇道青年会録事 坐して神風を待たぬ つかき / 青年諸士の一考を煩はす (戸塚弥三治) / 国に対する目的如何ん (魯堂居士) / 皇道青年会演説 / 青年会を祝して道歌 (石井正呂) / 南総禊教青年会逸事の一 夢の説 (高橋吉伴)
文苑 (楫取素彦 / 金井之恭 / 平山省齋 / 磯部最信 / 清夫 / 橋本元一郎 / 小川実 / 堀川春俊 / 間宮勘次郎 / 東陵主人 / 正鐵翁 / 東宮鐵齋 / 東宮千別)	文苑 (安木田頼方 / 冬樹庵清夫 / 平野狂生 / 橋本元一郎 / 直言子 / 小野崎はる子 / 小野崎すゝ子 / 塩沢庄吉 / 永野常三 / 中根義明 / 茂止治 / 山口格次郎 / 多能海小史 / 駒 / 宮正明)
雑録 大阪堺両地に於て禊教演説の彙報 / 時は金なり / 説教の功德凡人に及ぶ / 禊教の結果 / 能弁の解 / 惻隱の心なきは人に非ず / 鳴る物は天か將た人乎 / 大原村地内見付川より横須賀に至る舟行の紀	雑報 国語講習会開会式 / 禊教東宮本院谷貝分院の通信 / 熱心家 / [茨城県真壁郡に東宮千別ほか出張] / 禊教麻生本院の教師地方派出 / 禊教小木本院の近況 / 河田町禊教本院 / 禊教小幡本院の近況 / 禊教田嶋教院の通信 / 禊教静岡分院の通信 / 井上正鐵大人改弊始末 附東京谷中両大人縁記 / 井上大人在鳥記 / 井上神社御祭典 毎月四月十八日 / やまと舞奉納は / [各地方教師の参詣 / 磯部最信の祈願文 / 禊教東京参宮社の社員募集] / 正誤 / 雑誌代未払の諸君へ
雑報 警視総監殿の信書 / 東京監獄署日曜説教順番 / 正誤 / 禊教新誌社へ前金払込の諸君へ / 禊教青年会規則	
第3~4号 未発見	
第5号 1890 (明治23) 年4月25日発行 30頁	
会説 親愛なる諸君に告ぐ	
煙草の裏葉 甲州路旅日記 前号続き (井上正鐵大人遺稿)	
論説 スタイン氏講義問答 / 国体の組織上より我神道教を論ず (磯部武者五郎)	
寓言 話 飛こし開化の話 (梅園耕夫) / 少しの功を恩にさせる話 (同左) / 病氣平癒する呪の話 (同左) /	

第6~11号 未発見	
-------------------	--

『みそき』 目次

第12号 1890 (明治23) 年11月29日発行 34頁	
勅語 明治二十三年十月卅日	
社説 改題の理由 (加藤直鐵) / 禊教会雑誌をみそきと更め玉ひしをはきてよめる歌かへし歌 (磯部最信) / 改題祝辞 (東海学人) / 雑誌の改題を祝ひて (南 / 二禾 / 澄水 / 可水 / 花守 / とし / 霞昇 / 多能海 / 鶯叟 / 大賀保吉) / 改題雑誌の発刊を祝す (渡辺得太郎) / 旱蔭 (本間鐵鶴)	
論説 加藤博士の神道論を評す (磯部武者五郎) / 加藤博士の君が神道の事につきてたけしき御論ひことをものし玉ひし新聞紙をよみて (礫川女史) / 忝なく加藤弘之様の御説を駁す (魯堂居士)	
寓言 一夕話 当世天狗の話……画 (蘇道生) / みそき石罅の話 (三扇軒主人) / 強い女房の話 (梅園主人) / 油断の話 (同左)	
寄書 祈祷の利益と御神水 (少女庵主人) / 蓮門教本祠の大要 / 貴重なる我日本 (戸塚弥三治)	
小説 実事小説 義理となさけ……画 (色葉山人)	
文苑 (海上胤平 / 大塚昌吉 / 桂の家たのみ / 永野常之 / 堀川春俊 / 安蘇山人 / 大賀保吉 / 寺井柳子 / 寺井稲子	

/ 鈴木重華 / 花の本宗匠 / みとりめ / 喜今 / 松泉 / 雨竹 / 自然堂宗匠 / 鳥暁 / 寿女 / 南 / 気楽坊 / 永孝 / 一其 / 梅苔舎宗匠 / 花守 / 景風 / 越路 / 君女 / 静霞 / 蘭亭宗匠 / 無欲堂 / 登月 / 松涛庵茶里 / 小柳 / 古今 / 作良 / 星理 / 鶯叟 / 磯部武者五郎 / 大沼鶴林 / 有賀実 / 橋塚鬼笑)	
雑報 各教管長の会議 / 禊教各院懇親会 / 大成教諸規則編製 / 禊教中教正小川実東京出張所移転 / 蓮門教院移転 / 水戸市有馬賛雄君より記者への御忠告 / みそき雑誌の規則第四条により賛成員と社員とを御申越の内金員前納になり升々芳名は左に / 大成教所属教会 / 皇道青年会と講究会 / 禊教谷貝分院通信 (渡辺三要) / 各教連月遥拜式并に研究討論会 / 禊教越ヶ谷分院通信 (永野常三) / 雑誌購読の諸君へ	
皇道青年会録事 [演説の休み]	
第13号 1890 (明治23) 年12月25日発行 33頁	
社説 伊勢五日記 (魯堂居士)	
論説 真理上より我神道教を論ず 第二節 造化 (磯部武者五郎) / 井上哲次郎先生と談話 (東海学人)	
寓言 一夕話 推測の話 (天眼道人) / 片眼の鹿の話……画	

(同左) / 山の話 (同左) / 世間に鬼ある話 (三扇軒主人) / 変名議員の話 (田夫芋生)

説教 古事記 (初見千景)

寄書 貴重なる我日本 (戸塚弥三治) / みそ、きの改題を祝す (平野行則) / 諸人愛敬之説 (杉村敬道) / 教導職試補申付候儀伺 (故平山省齋)

小説 実事小説 義理となさけ……画 (色葉山人)

文苑 (海上胤平 / 鶴酒家霞昇 / 本多孫七 / 伊藤喜太郎 / 中山柳吾 / 鶴岡信傳 / 千種有規 / 鈴木義敏 / 寺井稻子 / 有賀実 / 大塚昌吉 / 大賀保吉 / 花の本宗匠 / 鬼笑 / 舛柴 / 登月 / 南 / 禾水 / 松涛庵殿 / 真し良 / としめ / 雨竹 / 自然堂宗匠 / 一其 / 越路 / 半子 / 如是我聞 / 多能海 / 梅苔舎宗匠 / 寿女 / 永孝 / 雷 / 蘭亭宗匠 / 花守 / 松涛庵茶里 / 梅琴 / 霞昇 / とし子 / 煙雨 / 星理 / 橋田孝治 / 野沢貢 / 渡辺長三郎 / 有馬武雄 / 松島敬三郎 / 村田岩太郎)

大成教録事 [神山金平と渡辺庄吉に弔状と幣帛料下付] (磯部最信) / [鳥村光津を大教正に補任ほか / 神仏各宗派管長参内 / 畝傍檀原教会と本莊宗武は関係なし / 加藤直織を三重・奈良に派出 / 長野県ほか各教会から教義上の伺 / 進退伺 / 三重大教会・大坂市三吉教会設立願 / 高知県小高板村教務所設置願 / 神奈川県白石教会本院・天学教会本院分割設立願 / 新潟県相川町胞衣分教会・神奈川県横浜分教会・秋田県鳥見教会設立願 / 明治24年1月各教会の発会日割 / 鍛冶橋・下宇都宮監獄説教日割]

雑報 12月11日 賢所遥拝式景況 / 有名な故賀茂の矩清翁の著述 / 貧民救助義捐金の処分 / 禊教各社正副教会長并重立教師集會 / 南部三春地方の近況 / みそ、き代金前納払込の人名 / 禊教谷貝分院通信 / 大坂市みそ、き売捌所 / [鈴木長平賛成員の金員寄贈] / 蓮門教各教会位置

皇道青年会録事 [明治24年1月より組織改良、本間鶴・麻生正一・古莊正敬・村越鐵善・渡辺長吉・村上丑六・伊藤喜太郎を担当幹事に]

第14号 1891 (明治24)年1月30日発行 33頁

祝辞 [1月3日大成教行発会式] (磯部最信)

論説 真理上より我神道教を論ず 第三節 世界の統理 (磯部武者五郎) / 大数の勢力に抗するものは夫れ日本魂か (戸塚弥三治) / 言語の錯乱は国の不祥なり (金杉泰介) / 道徳の階級一敗徳矯正策 (天鏡道士) / 我邦を忘る、勿れ (桜井宿直)

寓言一夕話 数語の話 (天眼道人) / 兎の綱渡り口上 (同左) / 正直の話 (蘇道生) / 夫婦愛情の話 (同左) / 邪病防きの話 (三扇軒主人) / 仁 (大田次次郎) / 義 (同左)

小説 実事小説 義理となさけ (色葉山人)

文苑 (大沼枕山 / 大沼鶴林 / 皐蔭孤憂 / 宮崎玉緒 / 鈴木義敏 / 千種明規 / 根本新 / 増川頼風 / 安川喜太郎 / 鶴酒舎霞昇 / 堀川春俊 / 大賀保吉 / 武田定弘 / 萩原宗治 / 樋口義州 / 山口格次郎 / 伊藤喜太郎 / 本多孫七 / 鶴岡信傳 / 岩切彦太郎 / 菟道春千代 / 松涛庵殿 / 霞昇 / 氣楽坊 / 雷 / 關輔 / 南 / 鬼笑 / 自然堂宗匠 /

田の実 / 越路 / 照道 / 禾水 / 梅苔舎宗匠 / 一笑 / 寿女 / 蘭亭宗匠 / 澄水 / 花守 / 其齊 / 斗南 / 煙雨 / 山中芳兵衛 / 高尾直太郎 / 橋本元一郎 / 渡辺得太郎 / 鈴木喜三郎 / 倉持宗次郎 / 中野栄助 / 根本文助 / 秋葉政治 / 小倉兵三郎 / 本田瑞穂 / 安川吉太郎 / 齋藤々吉)

大成教録事 [内務省訓令第八九四号を達す] (磯部最信) / 一月三日大成教々務行発会式 / 拾三号録事申へ掲出 / 一月十一日遥拝式 / 廿四年中遥拝式月順 / [小川実を弔し幣帛料を下付]

雑報 禊教々祖井上正鐵靈神の祠改造建築の事 / 蓮門教各教会位置 地方の部 / 歐人義士の墳に泣く / 大河内松子殿葬儀 / みそ、き代前金払込の人名 / 谷本富君来状 (磯部武者五郎) / 新刊雑誌 (神道雑誌 / 会通雑誌 / 経国利民正義雑誌) / 下総国猿嶋郡仁連町 / [岡田郡安静村 / 谷貝分院]

皇道青年会録事 [幹事臨時会の開催と第一会演説討論会の延期] / 時世と宗教 (村上丑六)

第15号 1891 (明治24)年2月25日発行 33頁

[広告] 四条嗚神社創立趣意書 (保野景孝・協阪正義)

大成教録事 [孝明天皇御例祭と紀元節に磯部管長参内 / 小林泉に多賀教会総教長を依頼 / 故鶴岡与市に贈少教正 / 中田照朝を権中教正に補任ほか / 秋田県酒時分社を分院に改称ほか]

社説 大成教の主義 神宮教院 / 神道本局 / 大社教 / 神習教行 / 御嶽教

論説 名利の説 (太田次次郎) / 神の御裔 (黄眼子)

寓言一夕話 見立角力 (天眼道人) / 鶯の話 (蘇道生) / 神いぢり (三扇軒主人) / 反響に怖れたる童子 (兼光和加)

説教 古事記 (初見千景)

漫録 神祇官と寺務官 / 馬車の中にては / 咄々怪事 / 鬼が出るか蛇が出るか / 記憶せよ / 三猿居士とは

寄書 敬神家、平野行則君の信書 / 偶感 (矢島庄五郎)

特報 三條公訃音

ものかたり 菅家 百人一首の内 (阿呼)

小説 実事小説 義理となさけ (色葉山人)

文苑 (宮崎玉緒 / 鶴岡信傳 / 鶴酒家霞昇 / 武田定弘 / 伊東金次郎 / 伊東喜太郎 / 本多孫七 / 大賀保吉 / 永野常三 / 申橋隆美 / 大塚昌吉 / 橋本元一郎 / 小林美佐雄 / 三輪直枝 / 名取太郎平 / 倉本源之助 / 小林清繁 / 花酒本宗匠 / 旭光 / みとり / 鬼笑 / 雷 / 泥水 / 田の実 / 禾水 / 南 / 松涛庵殿 / 月窓 / 越路 / 小千代 / 照道 / 兼尾 / 自然堂宗匠 / 開輔 / 田の実 / 一玄 / 翫月 / 霞昇 / 花守 / 梅苔舎宗匠 / 春秋 / 蘭亭宗匠 / 石汀 / 若葉 / 兼尾女史 / 澄水 / 菖芳 / 宇野徳一郎 / 皐蔭孤憂 / 齋藤々吉)

雑報 [磯部宅の火災 / 四条嗚神社創立趣意書] / 梅田村井上祠建築寄附金募集規約 / 東京越ヶ谷分院通信 / 同谷貝分院通信 / [故小幡鐵臣三周年祭] / 上州伊勢崎後藤教院の通信 / 蓮門各教会位置 / みそ、き代前金払込芳名

皇道青年会録事 [小幡本院にて第一会開会]

第16号 1891(明治24)年3月25日発行 32頁
大成教録事 成十号〔大祭を五月に延期し素山彦弘道命の一年祭と併せる〕(磯部最信)／〔小川又右衛門を権少教正に補任ほか／大阪で教会所設置伺ほか／黒住教会で擇拜式〕

二月廿八日宮中歌御会始 (御製／皇后宮御歌)
社説 大成教の主義 第二回 黒住教／扶桑教／実任教／修成派／大成教／禊教々々／多賀教会／蓮門教会
論説 神道宗教の惑弁 (加藤直鐵)／拝像の説 (東海学人)

寓言一話 流行性の熱商人 (天眼道人)／金を拾ふ話 (蘇道生)

漫録 獅子身中の虫とは誰ぞ／甚矣哉道義の衰たる／是可忍也孰不可忍／憤まざるばある可からず

説教 法身論 (戸塚弥三治)
宝神明鑑施本の弁／宝神明鑑施本規則 (芳村正秉)

寄書 敢て憂国の志士に告ぐ (侃々生)
ものかたり 火の災に逢ひにし次の月のその日によめる (含翠庵主人)

小説 大偏人 第一回 昔し々々神代の巻 (倭胡蝶)

評林 真奇怪 (鐵門孤俠生)

文苑 (本莊宗秀遺詠／大河内松子遺詠／さくら戸玉緒／三宅範義／丹桃蹊／鶴岡信僖／伊藤金次郎／伊藤喜太郎／本多孫七／武田定弘／木村倍三／松島敬三郎／橋本元一郎／大賀保吉／増川頼風／安川吉太郎／鈴木義敏／月方三郎／篠田雲峰／倉本とく子／花迺本宗匠／照道／鬼笑／藤露／一其／みとり／田の実／旭光／寿楽／安楽／花守／松涛庵宗匠／鱈／稻賀／妙々／禾水／寿楽／澹堂／鬼笑／狸友／雨竹／自然堂宗匠／志解女／射節／蘭亭宗匠／藤の家／鶯叟／星理／煙雨)

雑報 みそ、き代前金払込芳名／東宮谷貝分院 (直言子)／〔中沢豊七の談話〕／来る四月十八日は梅田村にて例年の通り禊教〔教祖大祭〕／隅田川船中の大祓／弊館へ寄贈の新刊雑誌

皇道青年会録事 〔演説開会／組織改良の予告〕

第17号 1891(明治24)年4月25日発行 32頁
大成教録事 成第廿号〔五月廿二日大祭并素山彦弘道命一年祭執行〕(磯部最信)／〔例祭参拝人数を申し出ること〕(大成教々務庶務課)／〔高橋元貞を権少教正に補任ほか／東宮千別／根本新が各地方布教し帰京を届け出／中村由治らに駒ヶ根寂本先明教会取締申付／岩崎鹿十郎が八阪教会本院長担任／三重県御塩殿教会・熊本県蓮門教分教会・三宅島禊教東宮分教会・京都府敬神教会・岡山県天真教会・新潟県胞衣分教会設置／兵庫県八阪教会出張所届ほか〕

論説 神道宗教の惑弁 第二回 (加藤直鐵)／拝像の説 (東海学人)／道を履む者は必ず一階を進む (戸塚弥三治)

寓言一話 金箔付の日本人 (天眼道人)／神を偽る話 (魯堂居士)／医者目を盗む (蘇道生)／老升徳利の話 (永野常三)／化物語 (三扇軒)

神語略伝 〔トホカミエミタメの解釈〕(宮崎玉緒)

ものかたり 桃太郎の説 (平野行則)
寄書 大成教信徒諸君に向けて望む所あり (直言子)／日本国 (佐々立五郎)

小説 大偏人 第二回 (和胡蝶)

文苑 (本莊宗秀遺詠／大河内松子遺詠／中村喜寧)

雑報 禊教々祖井上正鐵大人大祭／禊教青年誌第一号／ナレトモ精神に於ては雪と墨／神随教会通信／故大審院長西成度君葬儀／禊教東宮分院よりの通信／〔同谷貝分院の信徒と春季修行〕／同越ヶ谷分院／愛宕分教会と旭嶺教会〔愛宕教会は神道本局、担当教師は御嶽教、取締上影響〕／青山祠宇慰霊祭／みそ、き代金払込芳名／芭蕉翁行脚怪談袋

皇道会録事 慢妄卑陋紙面に汎濫す (鐵門孤俠生)／皇道会施米

評林 猜念志 (蔭の家主人)／青年誌記者に質す (桜揚太)／〔大演説会の準備／青年誌への弁駁／施米の精算〕

第18号 1891(明治24)年5月25日発行 32頁
吾同胞諸君に告ぐ 詔勅〔大津事件〕

大成教録事 祈禱〔大成教教務庁、禊教各本院、蓮門教本祠に於て魯国皇太子殿下の御負傷御平癒の祈禱〕／〔教師昇級／京都市真金教会昇等認可／禊教青年誌第一号(四月十八日発兌)の記事事実相違につき編集人を召喚／淘宮講社吉川伊哲布教派出／大阪真理教会池上雪枝本月二日死去〕

論説 神道宗教の惑弁 第三回 (加藤直鐵)／真理上より我神道教を論ず 第四節 神性 (磯部武者五郎)／社会の演劇者となる事勿れ (戸塚弥三治)

神語略伝 前のつ、き (宮崎玉緒)

寓言一話 犬と猫の対話 (天眼道人)／蛙物語 (蘇道生)／閑なき話 (三扇軒三要)

天地剖判の説 (松本新左衛門)

寄書 正義 (山岡茂虎)／特性とは何ぞや (豊原疎狂)／井上正鐵大人旧慣を重ぜさせ給ひし事 (直言子)

和歌の栞 てにはの巻 (三浦直正)

小説 大偏人 第三回 今は昔し系図の巻 (和胡蝶)

文苑 (鐵門孤俠生／芋栗園主人／橋本元一郎／園生清太郎／大塚昌吉／武田定弘／清喜庵旭光／増徳薄／鶴岡信僖／大賀保吉／平井忠道／香森賢齋／伊東金次郎／伊東喜太郎／本多孫七／大塚悦之助／月方三郎／倉本とく子／橋本直言子／初見千景)

雑報 みそ、き代金払込芳名／五月廿一日日本新聞雑報に果して信乎と題し／下谷車坂禊教宮沢本院祭典執行／素山彦弘道命一周年祭と大成教大祭／信徒和田道三郎氏より根本教正への書翰〔小幡分院下野国足利郡粟谷村大雹害〕／信徒の徳行 其一〔谷貝分院信徒〕／越ヶ谷禊教分院／和歌山県和歌山市と有田郡近況 堀通信員より

皇道会録事 四月廿八日田嶋教院にて演説開会／五月三日小木本院にて開会／五月十八日杉山教院にて開会／六月開会は

第19号 1891(明治24)6月28日発行 32頁
大成教録事 議定〔禊教各院長〕／辞令〔東宮千別を大成

正に補任ほか) / 賞状下附〔三原庄兵衛に〕(磯部最信) / 派出届出〔東宮千別〕(大成教本部)

論説 拒外教議(磯部武者五郎) / 慈母の愛を忘る、勿れ(源茂正)

説筵 六根清浄の祓の内(加藤直鐵)

和歌の葉 てにはの巻(三浦直正)

寓言一夕話 心を直す御守札(三扇軒三要) / 三人沐浴(川波漁夫) / 蚤よけの話(蘇道生)

寄書 日本は君子国なり(佐々立五郎) / 同視同感の人士に訴ふ(森月樵夫)

小説 雨後の月(松廼舎)

文苑 (大沼鶴林 / 大作暘 / 東宮鐵磨 / 菟道春千代 / 宮崎玉緒 / 常磐正実 / 大塚昌吉 / 大塚悦之助 / 鈴木茂敏 / 安川吉太郎 / 増川頼風 / 齋藤藤吉 / 香森賢齋 / 園生清太郎 / 丹桃蹊 / 園生鶴子 / 鶴岡信僖 / 申橋隆美 / 武田定弘 / 鈴木義敏 / 安蘇道人 / 赤平清太郎 / 赤平利七 / 佐藤龜尾 / 山田助七 / 深沢伊勢吉 / 花廼舎)

漫筆 忠(太田才次郎) / 孝(同左)

雑報 みそ、き代金払込芳名 / 横須賀教会所移転に付祭典の景況〔大火で焼失した東宮、小木、小川三社合同の教会所新築落成につき、祝詞と東宮千別の祝辞、小木藤太郎の祝文〕 / 磯部管長の巡教〔京阪、高知、徳島方面〕 / 特志家の書信〔尾張の石川熊太郎〕 / 編者白す〔多忙のため記事粗雑〕 / 第十八号正誤 和歌の葉

第20号 1891(明治24)年7月25日発行 32頁

造物主論(加藤尚文)

論説 真理上より我神道教を論ず(磯部武者五郎) / 〔唱え詞〕

おとぎ話 神使のゆめ(色葉山人)

天地剖判之説(松本新左衛門)

寓言一夕話 はらひと坐禅(色葉山人)

和歌の葉 てにはの巻(三浦直正)

寄書 淘汰の時代(矢島庄五郎) / 謹んで誤教信者諸君に告ぐ(戸塚弥三治)

小説 雨後の月(松廼舎主人)

漫筆 物外居士の話(平野行則)

文苑 (菟道春千代 / 大賀保吉 / 萩原宗治 / 伊東喜太郎 / 新藤福樹 / 大作暘 / 西成一)

大成教録事 青山祠宇転換及改称之件〔磯部最信「青山祠宇ヲ大成教へ転換ノ儀願」、平山省齋「御照会」など〕 / 辞令〔村越鐵善を大教正、横尾信守を権大教正に補任ほか〕 / 管長派出所に付内務大臣へ届出〔多賀教会長小林泉らの招きで四国・京阪へ〕 / 管長派出所に付代理居〔磯部留守中は加藤直鐵が管長代理〕 / 派出届出〔村越鐵善〕 / 取扱件数 / 賛成員 / 正誤

雑報 みそ、き代金払込芳名 / 河田町教会の名越祓

皇道会録事 事務所の移転〔浅草区猿岩町より河田町本荘邸内へ〕 / 義捐金 / 入会申込

第21号 1891(明治24)年8月25日発行 30頁

造物主論(加藤尚文)

論説 真理上より我神道教を論ず 結論(磯部武者五郎)

天地剖判之説(松本新左衛門)

御伽話 高天原と極楽(色葉山人)

和歌の葉 てにはの巻(三浦直正)

紀行 四国廻りの記(磯部最信)

寄書 味ふべし丸吞すべからず(戸塚弥三治)

小説 雨後の月(松廼舎主人)

漫筆 言葉のかきよせ

文苑 (宮崎玉緒 / 山田淳子 / 真鍋豊平 / 菟道春千代 / 丹桃蹊 / 武田定弘 / 大賀保吉 / 名取太郎平 / 慎之)

〔東宮分院・松沢貞次郎の孝心〕

大成教録事 辞令〔杉村敬道を権中教正に補任ほか〕 / 派出届出〔麻生正守を横浜市へ〕 / 取扱件数 / 賢所遥拝式 / 月説教会大祭 / 正誤

雑報 東宮越ヶ谷分院通信 / 河田町教会近況 / 下谷車坂教会近況 / 視教青年幻灯会 / 鍛冶橋監獄署説教 / 本間教会 / 館告 / みそ、き第二十号正誤 / みそ、き代金払込芳名

第22号 1891(明治24)年9月25日発行 32頁

造物主論(加藤尚文)

論説 道德実践説(磯部武者五郎)

〔和歌2首〕(宣長大人)

御伽話 高天原と極楽(菟道色葉)

寄書 大成教の信徒諸君(直言子)

紀行 四国廻りの記(磯部最信)

寓言一夕話 問答の按摩(柴田景明)

小説 雨後の月(松廼舎主人)

文苑 (菟道春千代 / 橋本元一郎 / 和田新八郎 / 根本新 / 杉山子順 / 安蘇道人 / 鶴岡信僖 / 萩原宗治 / 大塚悦之介 / 園生清太郎 / 大賀保吉 / 武田定弘)

漫筆 言葉のかきよせ

大成教録事 帰京御届〔磯部最信〕 / 代理相候御届〔加藤直鐵〕 / 辞令〔故河村治八に中教正を贈位ほか〕 / 取扱件数 / 賢所遥拝式〔「神道本局」の名称注意〕

雑報 東宮亀岡分院通信 / 多賀教会其他の近況は / 谷貝禊教分院通信 / 院長根本新君の通信 / みそ、き代金払込芳名 / 暗算かるた需用者多し(戸塚弥三治作成) / 館告

第23号 未発見

第24号 1891(明治24)年11月25日発行 28頁

道德実践説緒言(磯部武者五郎)

論叢 大化二年改新之詔なる別の字の解(松本新左衛門)

学淵 和歌の葉(三浦直正)

寓言一夕話 礼を申さざりし翁(直言子) / 御神水(抱腹子)

紀行 四国廻りの記(磯部最信)

寄書 震災小話(田中一雄) / 仁をなして効を全ふするは質素と謙譲とにあり(戸塚弥三治) / 勅語期年会祝文(吉村春雄)

小説 雨後の月(松廼舎主人)


文苑 (橋本元一郎・直言子)

漫筆 言葉のかきよせ(平野行道)

謝告〔記者病気のため記事疎漏〕(みそ、き記者)

大成教録事 尾濃震災者救恤義捐金〔視教横尾本院・視教

<p>小幡本院・禊教福田鐵知社中・河田町第一分教館・禊教杉山教院・洵宮講社・禊教東宮本院・禊教宮沢本院・三重教会・明林教会) / [故岩崎慎三郎に権大講義を贈信] (磯部最信) / 賢所遥拝式/取扱件数</p> <p>雑報 遠州大原教会通信/谷貝分院通信/台田教院通信/河田町教院の門中にて/みそ、き代金払込芳名/臨時広告(修道館編集部)/鳴動の原因[理学博士関谷清景が帝国大学総長へ差し出したもの]</p>	<p>谷分院通信/同亀岡分院通信/ [2月より編集人が加藤直鐵から磯部武者五郎に、菟道春千代が補助員に] (修道館)</p>
<p>第25号 1891 (明治24)年12月25日発行 31頁 歳暮之辞</p> <p>論説 道德実践説 第一編 道德性 第一章 道德の固有を論ず (磯部武者五郎)</p> <p>御伽話 佐倉宗吾と耶蘇基督 (色葉山人)</p> <p>寄書 異教巢窟三位一体論 (三田芋史) / みそ、き雑誌に与ふ (小幡貞斎) / 神道自ら淘汰せよ (戸塚弥三治) / 国体と神道教 (塩沢義忠) / 禊教青年の末路を論じ地方伝道教師に望む (矢鳥庄五郎)</p> <p>文苑 (真鍋豊平/宮崎玉緒/菟道春千代/羽田真幸/田口動/浅井光政/高井静枝/浅井公子/栗野幸子/菟道公子)</p> <p>寓言一夕話 鳥に如かざる人 (秋津屋)</p> <p>小説 実事小説ますかゝみ (村雨山人)</p> <p>大成教録事 [初見彦兵衛を権中教正に補任ほか] / 賢所遥拝式/取扱件数/尾濃震災救恤義捐金の件 [愛知県知事・岐阜県知事] / 尾濃震災救恤義捐金 [禊教村越本院・横浜禊教分院・禊教麻生本院・禊教杉山教院・河田町分教館・禊教小幡本院・禊教宮沢本院有志・栃木宮沢分院有志・川越宮沢分院有志]</p> <p>雑報 神道雑誌記者の放言 [『神道』第6号・神道本局の沿革] / 禊教信徒の篤志 [久方教院信徒が垣差郡・香取郡に両郡橋を架橋] / みそ、き代金払込芳名/謝辞 [病気快方につき出勤] (加藤直鐵)</p>	<p>第27号 1892 (明治25)年2月25日発行 26頁 本を知れ (菟道春千代)</p> <p>論叢 天之御中 (岩下多聞) / 神御靈 (同左) / 道德敗傾の原因を論じ救済策に及ぶ (天鏡道士)</p> <p>御伽話 佐倉宗吾と耶蘇基督 (色葉山人)</p> <p>寄書 異教巢窟三位一体論 (田中一雄) / 矢鳥庄五郎氏に答ふ (後藤正明) / 六根清浄の事 [加藤直鐵への反論] (森月美穂)</p> <p>文苑 (菟道春千代/山本常磐/曙庵虚白)</p> <p>小説 松の操 (松の家みどり)</p> <p>漫録 伊藤仁斎の厳格/因果応報/愚痴</p> <p>大成教録事 賢所遥拝/濃尾震災救恤義捐金/地方派出 [東京千別・根本新] / 転地療養 [加藤直鐵]</p> <p>雑報 谷貝分院通信/横須賀禊教分院通信/みそ、き廿六号雑報欄内 [編集担当不確定] (修道館)</p>
<p>第26号 1892 (明治25)年1月25日発行 26頁 亀寿万歳 (菟道春千代)</p> <p>論説 道德実践説 第一編 第二章 道德性の発達/第三章 道德性の発達の妨害 (磯部武者五郎)</p> <p>学淵 発言の規則ある事をいひて語学新論の欠を補ひ兼て世人に示す (松本新左衛門)</p> <p>御伽話 佐倉宗吾と耶蘇基督 (色葉山人)</p> <p>寄書 聊か教職諸君に質す [日本婦人の節操] (小幡貞斎) / 是でも嫌ひか神道は (独尊居直正) / 仁は坐して待つべきにあらず (戸塚鹿次郎) / 宮沢本院発会式演説要旨 (三田芋史)</p> <p>文苑 (宮中御歌会始 [23首] / 宮崎玉緒/菟道春千代/鶴岡信傳/真鍋豊平)</p> <p>寓言一夕話 地震の話 (蘇道生) / ありまきの話 (同左) / 先師の申しし事を聞きはべりて (直言子)</p> <p>小説 実事小説ますかゝみ (村雨山人)</p> <p>大成教録事 賢所遥拝式/尾濃震災救恤義捐金の件 [岐阜県知事/大成教々務庁詰員ほか義捐金] / 警視総監の謝状 [監獄教教師]</p> <p>雑報 本年一月の発会日/谷貝東宮分院の通信/禊教菓の</p>	<p>第28号 1892 (明治25)年3月25日発行 28頁 神道教会の隆盛を望む</p> <p>論叢 碧血集 遺書門の部 桜田壯士/吉田松陰 (佐伯保・佐々立五郎) / 病中の所感 (魯堂居士) / 道德実践説 第一編 第四章 道德性の進歩/熱心の説 (磯部武者五郎)</p> <p>漫録 東照宮消息 [岩下方平から女鑑へ寄贈されたもの] / 無い物づくし/節酒と禁酒/馬鹿の人相書</p> <p>寄書 誠は宗教家の精神なり (小幡貞斎) / 真正の道德を望む (三浦直正) / 三位説 (三田芋史) / 道德敗傾の原因を論じ救済策に及ぶ (天鏡道士)</p> <p>文苑 (佐々木高行/鍋島直大/高崎正風/千種有任/宮崎玉緒/八十媼 安齋のり子/高部有慎/菟道春千代/荒川千巻/梅本春道/常磐閣正実/羽田真幸/菟道公子)</p> <p>小説 松の操 (松の舎主人)</p> <p>大成教録事 賢所遥拝/甲第五号 [教会名改称の儀を届出] (磯部最信) / [小野又右衛門を中教正に補任ほか] / 取扱件数</p> <p>雑報 故管長平山省齋翁墓表建設/囚人の灯明料 [村越大教正毎月説教・宇都宮監獄] / 内務省訓令第四号と第五号 [神官資格試験科目・無試験資格者] / 金一円也 寄附 (戸塚弥三治) / 金五円也 [平山成信] / 記載の事項に付て [記事が高尙に過ぎ、[会日の時の材料]にしてほしいが「本教の真理を学者社会に知らしむるもの」は必要のため地方信徒向けの別雑誌を求める] / 教祖井上正鐵大人の例祭/川越分院の開院式</p>
<p>第29号 1892 (明治25)年4月25日発行 26頁 神道は祭天の古俗論者に謝し神官教導職の注意を促がす</p> <p>論叢 碧血集 遺書門部 廿八号のつ、き 堀織部正/河野顯三 / 安德帝の実録/正直の必要愈々起る (戸塚弥三治)</p> <p>漫録 みそ、き文章四季の評句 (松の舎みどり) / 漢風を好む異人説/実用は則ち之れに勝れり/江城は一日も</p>	<p>第29号 1892 (明治25)年4月25日発行 26頁 神道は祭天の古俗論者に謝し神官教導職の注意を促がす</p> <p>論叢 碧血集 遺書門部 廿八号のつ、き 堀織部正/河野顯三 / 安德帝の実録/正直の必要愈々起る (戸塚弥三治)</p> <p>漫録 みそ、き文章四季の評句 (松の舎みどり) / 漢風を好む異人説/実用は則ち之れに勝れり/江城は一日も</p>

	守るべからず／徳育の方針を定めよ／老人の六歌仙／玉をしる人玉をしらざる人
教林	〔各教会教師の教話・講演等を掲載したい〕／遺訓集略評〔次号より掲載〕
寄書	notの文字を省け(三浦直正)／清浄心とは何ぞや(三田芋史)／異教を信ずるは無益なり(橋林堂千舟)
文苑	(楠正成)
大成教録事	〔大成教祠宇大祭／故管長素山彦弘道命三年祭執行〕(磯部最信)／賢所遙拝／〔福田鐵知を権大教正に補任ほか〕／取扱件数〔愛媛県庁へ多賀教会愛媛本院分教会設置願、大阪府庁へ敬神支教会設置願、心学教会廃止届、高知県庁へ八阪教会設置願、長崎県庁へ蓮門分教会を対馬国へ設置願、東京府庁へ三津教会設置願、入社願など〕／廿八号のつき視教院の位置〔視大教院、第一教院から第十六教院〕
雑報	御救恤金下賜／煉瓦屋と、土蔵造 四月十二日日本新聞／精神は焼けず 前同断／贈権中教正〔故井上善弥に〕／視教々祖井上正鐵大人の例祭／神隨教院の通信／第六教院第一川越分院通信／稟告〔所属教会の教導職は購読・通信を〕(みそ、き発行人)
第30号 1892(明治25)年5月25日発行 26頁	
	〔館説〕 四季になぞらへし寓意(魯堂居士)
論叢	碧血集 遺書門部 廿九号のつき 源重義／ 近来吾党の敬神説(磯部武者五郎)
教林	遺訓集略解 祭文(加藤直鐵)
漫録	久米邦武を詠(柴田礼一)／伊勢太廟の御供米／四計／三利／桶中に瀉く／江流に注く／案山子賛／柳はみどり花はくれない／  明夷利・艱貞
寄書	慨言一則(礫川迂叟)／平山大人の三周年に逢ひて(直言子)／道德敗頹の原因を論じ救済策に及ぶ第廿八号の続き(天鏡道士)／我国現時の神道(戸塚弥三治)
文苑	(小林美佐雄／武田定弘／橋本元一郎／大賀保吉／藤原宗治／楯取素彦)
大成教録事	大成教祠宇大祭／賢所遙拝／〔森島正直を権少教正に補任ほか〕／〔佐藤藤吉を視大教院第十一教院院長当分心得に〕(磯部最信)／取扱件数〔東京府へ蓮門分教会設置願、愛媛県へ石鐵教会設置願、千葉県へ大元教会設置願、奈良県へ惟神分教会設置願、大阪府・千葉県・神奈川県へ視教改称届、長崎県へ蓮門分教会設置願、高知県へ八阪教会設置願、入社願など〕
雑報	故平山大人墓表建設寄附金(みそ、き第廿八号参看)／徳島市神道研究会社員より〔吉川勝司が管長印を偽造〕／医者の不徳義 五月二日の日本新聞／弄花事件／視教第一教院第四谷目分院通信／猿蟹合戦 舌切す、め〔菟道春千代著作〕／拍案一笑 鯉と狸 用人と庄屋(東山人)／稟告(みそ、き発行人)
第31号 1892(明治25)年6月25日発行 26頁	
大成教示達〔布教の基礎を拡張する方法を募集〕(磯部最	

	信)／四季になぞらへし寓意(魯堂居士)
論叢	碧血集 遺書門部 三十号のつき 源重義／ 近来吾党の敬神説(磯部武者五郎)
教林	遺訓集略解 祭文 前のつき(加藤直鐵)／我国現時の神道 第卅一号のつき(戸塚弥三治)
漫録	家内繁昌の妙薬／備前老人物語の中に／祖神孫仏〔『日本』新聞〕／邦人と欧人との活動力／以信会といへるまといの人の―に示すとて(楯取素彦)／安芸津新報八百三十八号在広島藤井百樹氏と重野安繹博士と国史眼云々の問答に付藤井氏か重野博士と見解の殊なるを比例したるもの
寄書	長歎又慨嘆(礫川迂叟)／道鏡非施王之子之説(松本新左衛門)／可慎言行(橋林堂千舟)／拍案一笑 鯉と狸 用人と庄屋(東山人)／夏の夜(直言子)
文苑	(宮崎玉緒／木下方章／小林美佐雄／萩原宗治／桑名重華／大賀保吉／加藤直鐵／山本のときは)
大成教録事	賢所遙拝／〔久志本常緩を権少教正に補任ほか〕／〔麻生正一を視大教院第十七教院院長に〕(磯部最信)／取扱件数〔栃木県へ視大教院第六教院栃木第二分院設置願、東京府へ蓮門分教会設置願、視大教院第四教院移転届、同第十七教院設置願、愛媛県へ多賀佐礼谷分教会設置願、入社願など〕
雑報	〔大成教示達への高論卓説を待つ〕／神祇官復興の議上奏案は／みそ、き雑誌を読んでこ、ろ清―敷なりければ(渡辺長三郎)／みそ、き雑誌の号の重なるを祝ひて／当六月より毎月説教開会は／京都敬神教会会長より／真実の信心家は〔塚原角之助について谷貝分院通信〕／原稿寄贈の御注意／視大教院将来に対する計画の小集会是
第32号 1892(明治25)年7月25日発行 26頁	
	傀儡師の説
論叢	倫理篇／源光圀卿の伝(磯部武者五郎)
教林	遺訓集略解 祝詞歌(加藤直鐵)／大祓詞俗解(三浦直正)
漫録	此父にして此子あり〔『日本』新聞〕／似而非なること／此処通り技無用／徳を養ふべし／日本国威数歌(三扇軒主人)／神代人代の論(南嶺子)／変化氣質〔茶山翁筆のすさび〕
寄書	法友諸彦に質す(丹香小史)／監獄教誨小言(三田芋生)／予が道德論(塩沢庄吉)
批評	勅語摘訓教育童歌〔菟道春千代氏作〕
文叢	故大成教管長平山省齋大人の三年祭に奉りたる和歌(磯部最信／楯取素彦／本莊宗武／東宮千別／東宮鐵麻呂／麻生正守／加藤直鐵／菟道春千代／梅本鍾太郎／林保衛／小林美佐雄／岩崎式夫／名取太郎平／山下喜久太郎／小幡鼎／田辺千友／野口久道／長谷川勘兵衛／内田遊顕子／金子勝友／榎本宗碩／野田美屋子／中村元三郎／桜井周子／三輪直枝／齋藤藤吉／岩崎鹿十郎／最賀曾野子／鈴木長四郎／藤木庄之助／橋本元次郎)／萩原宗治／大賀保吉／桑名重華／木下方章
大成教録事 賢所遙拝／〔松波丑吉郎を少教正に補任ほ	

	か) / 取扱件数 (入社願など)
雑報	大成教の示達に対し / 遠州の禊教信徒鈴木長平君より / みそ、き第拾五号の社説中 [神道本局の名称について正誤] / 禊教改良方案第一回会場
第33号	1892 (明治25) 年8月25日発行 26頁 神道教も亦音楽を利用すべし (花王居士)
論叢	天道天命の説
教林	神楽 (花廻舎主人) / 良心に問て語るべし (戸塚弥三治) / 石川丈山翁六勿銘
雑録	人間僅に三十年 (色葉山人) / 兄弟垣にせめぐを止めよ 仏国撰撰宗 (菟道花王居士) / 護国の二大秘訣 (ウ、ハ) / 道歌 (桑名重華)
寄書	吾人の準備 (丹舟小史) / 劇場建設の多きと芸娼妓輩の続出 (頑生) / 予か道徳論 (塩沢庄吉)
史林	安德帝実録
大成教録事	叙任 [三宅実法を権少教正に補任ほか] / 取扱件数 (入社願など)
雑報	禊教改良案第二回開会 (河田町教会にて) / 万国宗教大会 宗教大会議の目的 / お断り [編集主任病気のため通信記事次号] / 広告 (みそ、き発行人)
第34号	1892 (明治25) 年9月25日発行 24頁 大成教録事 [松波丑吉郎を権少教正に補任ほか] / 取扱件数 [静岡県へ禊教第一教院第八静岡分院改称届、東京府へ禊教第四教院移転届、禊教第十七教院設置願、天学教会分教会設置願、滋賀県へ敬神支教会設置願、愛媛県へ多賀佐礼谷教会設置願、茨城県へ天日教会支教院設置願、京都府へ敬神支教会設置願、愛媛県へ多賀教会出張所移転分教会と改称届、入社願など、水神教会第三分院長解職] / 賢所選拜 / 布教拡張方法の概略 (三橋充一郎) / 布教拡張に関する方法 (小林美佐雄)
論叢	謾言か將た偶言か (田中一雄) / 神道の真理は日月の如し (磯部武者五郎) / 最後の戦勝者となれ (戸塚弥三治) / 橋本元一郎 (菊の花を見て)
漫録	これも又造化の妙工か / 神前の御鏡 / 八識 / 閑思雑慮 / ○○教会の前途を卜す 虫元亨。利、涉、大川 / 神影流剣道の極意 / 牛に琴を弾ず
教林	倫理 孝の心 (無学道人)
史林	清麻呂の誠忠は、孝謙天皇の志を成すの説 (松本新左衛門) / 左の一篇は教友平野行則ぬしか今年の五月頃物せられし由にて寄せられし教への文にしてあはれは茲に掲げぬ (かとう直かね)
文苑	(魯堂居士 / 加藤直鐵)
雑報	二三の教師か管長の承認を得たるは [修道館で禊祓修行を執行、神道学研究会開設、所属教会へ禊祓神業を勧誘、積善保護会] / 神道教中の葛藤 [単称神道管長より神宮・大社・大成・神習・実行・扶桑の6教管長へ訴訟] / 総管の帰京 [徳川子爵北海道巡覧] / 禊教のくわふてふをことほきて (平松時厚) / 鐵男大人の神去りませしを悼みて (橋本元一郎) / 井上鐵男教師死す / 敬神教会の熱心 [京都稲荷山・森山正直] / 雑誌代金未払諸君へ / 神随教会本院より [秋田県雄勝郡田代村] / 神道○○派興隆論

第35号	1892 (明治25) 年10月25日発行 24頁 宮廷録事 詔勅 [議會招集] / 宮内省告示第十号 [陸軍特別大演習につき栃木県へ行幸] 大成教録事 甲第三十二号 [教会名義で不正の勸財なすものがいるため募金許可には管長の添翰を要することを東京府知事・警視總監へ依頼] (磯部最信) / 教職新補 [松広伊助を権少教正に補任ほか] / 取扱件数 [京都府へ敬神支教会設置願、東京府へ天学教会分教会設置願、愛媛県へ多賀教会出張所移転分教会と改称願、東京府へ福壽講社設置願、徳島県へ、八坂講社出張所設置願、入社願など] / 賢所選拜 修道真法略解 要旨 (故平山省齋)
論叢	宗教と教育の関係 (磯部武者五郎) / 教育の勅語を拝読して所感を記す (直言子) / 監獄教誨の一 (田中一雄)
漫録	監獄署祓詞 / 徳育一調 (福羽美静) / [2首評]
教林	大祓詞俗解 (三浦直正)
文苑	(無学道人)
史林	史学会雑誌の松浦辰男君の尊号紀略を読み老の思想を述ぶ (松本新左衛門) / 教友のよせられし文
雑報	御選幸 / 国民籍戸口総数 / 蠟壳町水天宮事務員より [守札について照会] / 一片の志 / 何たる不敬ぞ (空知集治監の大井上典獄か基督教教誨師を設置し御真影拜参廃止) / 不敬事件の取調 / 鐵男ぬしのみまかられしを悼みて (丹机蹊) / 禊第五教院の美談 / 遠州山名郡浅羽村養老会 / 雑誌購読諸君へ

第36号	1892 (明治25) 年11月25日発行 24頁 大成教録事 成第五号 [示達への意見について適否調査中] (磯部最信) / [漫りな神符製造により水神教院長を降級し、水天宮類似の神札差送 / 南葛飾郡寺島村水神教院第三分院建築費募集につき戒告] (磯部最信) / 教職新補 [安川義正を少教正に補任ほか] / 取扱件数 [東京府へ月読教会総本院改称届、入社願など] / 賢所選拜
論叢	宗教と教育との関係 (磯部武者五郎) / 跛鼈の説 (猿街閑人) / 監獄教誨の二 (田中一雄) / 曲馬の説 (頑生) / 標準の如き人物なきに苦しむ (戸塚弥三治)
漫録	書名尽の事 (福羽美静) / 書名尽 (大国隆正) / 隆陽二曆推歩の必用 (佐藤信比呂)
教林	やまと心 (無学道人)
寄書	教友のよせられしふみ / 神道教師の真価値 (上平定松)
短編小説	桜木の果 (小幡清華)
雑報	皇太子殿下の御俊素 / 歌御会始御題 / 教育家否教科書の値なし / 某教会中の符牒 / コロンブス世界博覧会附属宗教部宗教大会議の目的 [実行教管長柴田礼一渡海決定、神道教総体の代表者ではなく実行教限りの資格 / 他の各教にも照会あり] / 果して真乎 / 精農撰学会 (遠州山名郡東浅羽村新堀) / 山田伯の薨去と葬儀 謹告 [仏式葬儀] / 神道管長と管長との訴訟 [原告は神道管長、被告は神宮教・大成教・大社教・神習教・実行教・扶桑教。11月18日東京

始審裁判所第4部) / 長野県下、権中講義名取太郎平君書信 / 千葉県下、少教正鶴岡信傳君書信 / 大成教々務庁々外の大修繕 / 二三教師の奮発 [明治26年1月より教務庁にて神道禊修行を執行] / 稟告 [教務上の都合により発行人編集人を本年限り辞任] (加藤直鐵)

第37号 1892 (明治25)年12月25日発行 24頁
特別広告 [大成教教務庁の近くへ転居] (加藤直鐵)
大成教録事 第六号 / [明治26年1月3日本庁祭典]

(大成教教務庁) / 教職新補 [小倉テルを権少教正に補任ほか] / 取扱件数 [東京府へ神遍教会設置願、三重県へ三社教会設置願、山口県へ畝傍檀原教会設置願、入社願など] / 賢所遥拝

老教師諸君に蕪言を呈す (無学道人直鐵)

かきよせ 利己主義

漫録 いろは教へのたとひ言 / 博く学ぶべし / [南嶺子の説] / 親の子を思ふ心 / 文章を三等に分つ / 人の上より我身を知れ / 最期の一言 / [現世と来世の因]

論説 修道真法略解 / 今日吾人 (戸塚彌三治) / 産靈の説 (村松五郎作)

史談 天人古説

教林 後醍醐天皇御詠 (無学道人)

寄書 広島國學院新設大意 (藤井稜威)

維新逸事 故唐崎常陸介

文苑 (漁樵散人雄・吉村春雄)

短編小説 桜木の果 (小幡清華)

雑報 和歌和文添削規則 (国風会) / 権少教正大作暢三郎君通信 / 正誤 / 谷貝分院通信 / 廿五年一月中禊教各教院発会の日割 / 静岡県の中嶋長平君より加藤編集主任へ / みそ、き雑誌発行人兼編集主任は [田中一雄の履歴] / なひげとや吹く風ぞうるさき [牧師の息子を嘆いた母] / 両親王の御勇健 / 神道管長と管長の [東京地方裁判所にて原告の対審] / 奸商の胆を寒からしむるは / 直鐵ぬしの雑誌関係を止めるといふことを知り (花熏主人) / 大成教所属教会と信徒 (教会233か所、信徒119万6444人、うち教師5098人) / 神道教派の独立 [神道本部直轄丸山金光天理三教会、大成教本部直轄蓮門教、早晚管長設置の見込み。蓮門教は大成教に永世義納金上納の約ありと『日本』新聞に]

第38号 1893 (明治26)年1月25日発行 24頁
大成教録事 教職新補 [田中一雄・板倉勝全・村越鐵道を少教正、井上ノリ子・木谷寅之助を権少教正に補任ほか] / 新年の祝辞 (磯部武者五郎) / アナおもしろの歳首 (魯堂居士)

論説 新年感慨 (田中一雄) / 日本の神道は日本の専有物なり (加藤直鐵)

教林 大祓詞俗解 (三浦直正)

漫録 寓話 (咄瓢子) / 炬燵演説 (同左) / [体・用の因] / 教友は斯こそありたし (無学道人) / 神の光り (同左) / 己れを守れ (同左)

小説 松の操 (松廼舎主人ひとり)

雑報 [祭典式・年賀式・発会式を斎行、平松時厚・徳川

篤敬が祝辞] / 一月中所属教会発会式執行管長課長出張の順序左ニ / 賞状賜与 [長野県下伊那郡市田村久保田一郎に] (磯部最信) / 故島本仲道翁の葬儀 / 警視總監の謝状 [監獄教誨] / 秋田県雄勝郡田代村神隨教院信徒通信 / 禊教の一壯夫 [無学道人投書への感慨] / 加藤君のみそ、きの記者をやめぬるをうしみて (鶴岡信傳) / 年賀 (無学道人 / 加藤直鐵)

文苑 (前田利邨 / 正実 / 鶴岡信傳 / 福羽美静 / 加藤直鐵)

第39号 1893 (明治26)年2月25日発行 28頁

詔勅 在廷の巨僚及帝國議会の各員に告ぐ [製艦費補足]
大成教録事 教職新補 [神野嘉右衛門を権大教正に補任ほか] / 本庁甲第一号より第八号ニ至る取扱件数 [東京府へ正宗教会設置、寺社局長へ教会所主神、三重県へ畝傍檀原教会伊勢分教会設置、愛媛県へ八坂分教会設置、東京府知事へ各教会所取締の件、東京府へ禊第四教院出張所設置、秋田県由利郡長へ神隨教保呂羽講社移転の件] / 同上 乙第一号より第二号 [岐阜県へ震災義捐金の件、所属各教会へ教会所取締の件] / 賢所遥拝式 / 内務省訓令第一号 [各教宗派部事務状況報告] / 成乙第二号 [教会所の体裁と守札について所属教院教会長へ] (磯部最信) / 発第二号 [社寺局長より大成教管長へ、神社に紛らわしき行為の禁止]

論説 日本宗を起す可し (田中一雄) / 比較 (東陽小史)

寄書 正直は幸福を産むの母なり (戸塚彌三治) / 神道家に望む (浅野居士) / 不可忘本之説 (平野行則)

教林 大祓詞俗解 (三浦直正) / 法心 (無学道人)

漫録 或説人を迎乎室を迎乎 / 或問に答ふるの夢 (咄瓢子) / 岩下多門の四教 (惟神 / 鎮魂 / 思兼 / 言霊) (磯部武者五郎)

教海一瀾 監獄署教誨 第三

文苑 (前田利邨 / 平野行則)

雑報 禊教拡張改正法案成る [資金募集主意書 / 資金募集概則] / 磯部管長殿 [参内し賢所参拝、その後監獄説教] / 祈年祭御次第 / 福島陸軍少佐歓迎歌 / 禊教青年大演説 / 長野県通信 [青年会準備] / 製艦費献納 / 徳川総監祖母良子夫人薨去 / 信州伊那の一老教師 [坂巻総助、唱戒の仕口は徹頭徹尾八声] / 本月賢所遥拝式 / 秋田県雄勝郡田代村神隨教院信徒通信 / 本教所属教職一覧 (大教正、東宮千別・村越鐵善・島村光津。権大教正、横尾信守・村越鐵久・福田鐵知・川尻義祐・岡本市郎兵衛・齋藤多須久・小林泉・棚橋碌翁) / 社告 [「松の操」重刊の陳謝]

第40号 1893 (明治26)年3月25日発行 32頁

大成教録事 教職新補 [横尾信守を大教正、加藤直鐵を権大教正に補任ほか]

論説 日本宗起すべし 第二 (田中一雄) / 大祓發揮 (磯部武者五郎)

寄書 神号神符売買にて (戸塚彌三治) / 照魔鏡 (平野行則)

教林 大祓俗解 (三浦直正) / 或問一則 (白山麓夫)

漫録 言を駱駝に寓す / 販団子人 (咄瓢子)

<p>教海一瀾 儉勤（東宮鐵麻呂）／監獄署説教 第七（三田生）／信用は教化の柱石なり</p> <p>文苑 和歌数首（平松時厚／磯部最信翁／前田利邇）</p> <p>史談 陸軍少佐福島安正氏に関する『三宝叢誌』の報道</p> <p>紀行 桑折の道の記〔内田ゆか子女史〕</p> <p>雑報 陛下之御孝道、皇太后宮陛下之御達徳／磯部管長参内〔皇霊祭〕／松本新左衛門氏逝く／長野県巡教を請ふ／耶蘇学校の不敬／井上神社大祭／病氣見舞に握り飯三つ持つ／名医治療法／社告</p>	<p>道の栞（平野行則）</p> <p>教海一瀾 監獄教誨 第十五（田中一雄）／神道は吾人の尤も貴む所而して吾人は神道より利を蒙りつゝ、あるなり（戸塚弥三治）</p> <p>文苑（管長翁・前田利邇・飯塚文助・北城公甫・橋本元一郎・青木三成・成島由松・宮田政吉・杉村敬道・月今庵稍雨・身濂小僧・中西鹿都・秋山正・篠原柳翠・田中六跛・小幡貞斎・前田孝・美とり子・需山子・清華・霖里・多賀志）</p> <p>雑報 コロンブス世界博覧会附属宗教部〔磯部管長返信〕／賢所遙拝／後藤正明氏の昇級〔上州佐位郡伊勢崎町禊大教院第十四教院長・危篤〕／甲が乙に变ず／通信〔猿島郡岩井村飯塚文助氏〕／華族方の昇位〔大成教養裏前田利邇・平松時厚・諏訪忠正従三位に叙せられる〕／本教布教係り〔田中教正栃木県地方布教〕／勉強は神慮に叶ふ／福島中佐歓迎景況／社告</p>
<p>第41号 1893（明治26）年4月25日発行 25頁</p> <p>大成教録事 教職新補〔福田長之を権大教正に補任ほか〕</p> <p>／大成教示達〔5月22日祠宇大祭〕（磯部最信）</p> <p>論説 大祓発揮（磯場武者五郎）／日本宗起すべし（田中一雄）</p> <p>寄書 将以何待之乎（一寒生充）／才子乏しきにあらず（戸塚弥三治）／物皆な神道なり（村松五郎作）</p> <p>教林 山田長政／五兵衛儉を示して其子を教ふ</p> <p>漫録 守り謡（直言子）／小松内大臣墓所考</p> <p>教海一瀾 監獄教誨 第八（三田生）</p> <p>文苑（含翠道人／平松時厚／前田利邇／東宮鐵麻呂）</p> <p>雑報 猿島郡長田村西光寺の桜／北総直言子より猿島郡谷貝分院通信〔春秋二期修行、祓講義〕／海外通信〔シカゴ万国宗教会議議長より磯部管長に招請〕／徳川故吉子夫人の美行／菅公の遺訓／菅公論／日本武尊／死人活人／小兒／醜婦死す／神理〔丸山教会〕／落雷降雹／社告〔編集人昨今病氣／『神道興教論』近々出版〕</p>	<p>第44号 1893（明治26）年7月25日発行 31頁</p> <p>大成教録事 〔齋藤多源久を大教正に補任ほか〕／本庁三月ヨリ七月十九日ニ至ル取扱件数〔東京府知事へ豊川教会設置願、岐阜県知事へ震災義捐の儀、愛媛県知事へ敬神分教会設置願、東京府知事へ天祖天之御中主教会移転届、大阪府知事へ敬神支教会設置願、鹿児島県知事へ蓮門分教会設置願、東京府知事へ眞中教会移転、聖神教会移転、禊大教院直轄調布教会設置願、兵庫県知事へ蓮門分教会移転、神奈川県知事へ胞衣分教会設置願、東京府知事へ蓮門分教会移転、蓮門講社を分教会と改称、奇雲教会移転、天則講社移転、禊大教院第八教院移転、蓮門分教会移転〕</p> <p>論説 勤勉（磯部武者五郎）／此日本人心を奈何せん（三田生）</p> <p>寄書 初舞台（田中六跛）／宗教家の本分（小幡貞斎子）／祓の由来（杉村敬道）</p> <p>教林 木綿と木綿との弁 並に綿種渡来の事（東宮鐵麻呂）／監獄教誨 第十六（田中一雄）</p> <p>偉人漫録 旧会津藩の用達商蝸川俊助の伝（需山）</p> <p>文苑（加藤魯堂・山本榊堂・美とり・清華・内田遊歌子）</p> <p>雑報 コロンブス世界博覧会附属宗教部〔管長翁招待に対する回復文、前号掲載分を修正〕／大成教々務庁事務仮章程既定係員小改革あり／禊教信徒の破門〔麻生正守は養子正一を離別の上破門〕／神道管長と管長との訴訟〔原告神道管長敗訴、神宮教など六教勝訴〕／乞雨〔高崎町神道禊教社中一一度祓執行〕／奇々怪々〔深川「死青狂会」〕／社告</p>
<p>第42号 1893（明治26）年5月25日発行 27頁</p> <p>大成教録事 教職新補〔福田鐵知を大教正に補任ほか〕</p> <p>論説 大祓発揮（磯部武者五郎）／誠なき事業は永続せず第二（田中一雄）</p> <p>寄書 物識となる勿れ（笠原居士）／吾人の最大目的（三浦直正）</p> <p>教林 大祓俗解（三浦直正）／木綿と木綿との弁、並に綿種渡来の事（東宮鐵麻呂）</p> <p>文苑（管長翁・三浦直正・貞斎居士・水亭清華）</p> <p>故本莊宗武君葬儀録（加藤直鐵）／五月五日／本莊宗武の君のうせさせ玉ふをいたみてその霊の前によみてたてまつる詞みしかうた（源よしのぶ）</p> <p>雑報 興教論を見合せ神道要領成る／コロンブス世界博覧会附属宗教部〔パロース議長が磯部大成教管長と芳村神習教管長を議員に指名するも両管長は渡航せず〕／大成教祠宇大祭／神道熱心〔礪川痴叟〕／孝なる哉順なる哉</p>	<p>第45号 1893（明治26）年8月25日発行 34頁</p> <p>大成教録事 大成教事務仮章程／〔同章程の実施と磯部最信・平山成信・福田長之による寄付〕／教職新補昇級〔松井信一を少教正に補任ほか〕／賢所遙拝式</p> <p>論説 読、井上博士と基督教徒論、論、有感（礪川痴叟）／勤勉（磯部武者五郎）</p> <p>寄書 排妄見（上平定松）</p> <p>文苑（加藤直鐵／木下方章／武田定弘／九法竹之助／前田</p>
<p>第43号 1893（明治26）年6月25日発行 27頁</p> <p>大成教録事 教職新補〔鈴木真年を権大教正、後藤正明・小本藤太郎・田中金次郎を中教正に補任ほか〕</p> <p>論説 井上博士と基督教徒の論を読んで感あり〔礪川痴叟〕</p> <p>寄書 神祇官と神道家（上平定松）／神教は偏頗なる者にあらず偏頗に聞ゆるは布教者の失なり（橋林堂千舟）</p> <p>教林 木綿と木綿との弁並に綿種渡来の事（東宮鐵麻呂）／身心不二（無学道人）</p>	

利器／小幡栄／水野太郎／源篤敬／秋山晚翠／田中六跛／橋林堂千舟)

教海一瀾 監獄教誨 第十七 (田中一雄)

漫録 〔釈氏大雄氏による高岳親王墳墓発見について『令知会雑誌』第77号より〕

雑報 恐れ多くかしこき御事衆人心せよ〔『日本』新聞抄録〕／実行教管長〔18日万国宗教会議へ出席〕／禊教宣始祭〔8月22日第一教院にて祭典〕／中教正後藤正明氏之葬儀／社告(修道館)

第46号 1893(明治26)年9月25日発行 28頁

大成教録事 教導新補昇級〔室井道晴を権少教正に新補ほか〕

論説 破邪事業(磯部武者五郎)／読上井上博士と基督教徒論上有感(澤川痴斐)

寄書 国家の主元素とは何ぞ(岡室隈策)／教旨(三浦直正)

文苑 (丹桃蹊／佐藤かめを／築山孝子／木下方章／鶴岡信僖／加藤直鐵／田中六跛／武田定弘／前田孝／萩原宗治／九法竹之助／小幡壮／小倉知信／前田利器／源よしのふ／菅原利邨)／禊教宣始祭祭典祝詞

教海一瀾 監獄教誨第十八 (田中一雄)

漫録 笠原研寿小伝 (三田生)

雑報 禊大教院第四教院々々麻生正守氏逝く／福田鐵知氏逝く／禊大教院直轄調布教会開教式／新橋の芸妓

第47号 1893(明治26)年10月29日発行 34頁

大成教録事 教職新補昇級〔八坂千尋を少教正に補任ほか〕／本庁八月ヨリ十月九日ニ至ル取扱件〔三重県知事へ三重教会明道分教会設置願、參宮教会設置願、禊大教院第四教院々々長更迭届、愛媛県知事へ松山多賀教会大川分教会移転届、鹿児島県知事へ蓮門教会設置願、埼玉県知事へ禊大教院第六教院第一分院移転届、北海道庁長官へ随神教会太平講社設置願、神奈川県知事へ禊大教院第六教院第三分院設置願、東京府知事へ禊大教院第十二教院出張所設置願、ほか〕

論説 鈍刀の一割(中野堂堂)／破邪事業(磯部武者五郎)

寄書 神道の隆盛を謀る(橋林堂千舟)／体面を損する勿れ(杉山卯之輔)／流れ星(片山龍一)

文苑 (武田定弘／名取太郎平／萩原宗治／田中六跛／前田利器／九法竹之助／加藤直鐵／築山孝子／木下方章／前田利邨／故麻生正守／清水明齋／白川資訓／村越鐵善)

教林 大祓俗解(三浦直正)／禊の神伝(中野きよし)

漫録 唯一神道の廣大 神息と我息と一種之小虫寸喙(清水唯一)

雑報 孝子輩出〔人力車挽か緑綬褒章受章など〕／心学元祖石田梅巖生百五十年祭〔下谷区二長町心学参前舍〕／禊教開祖谷中井上神社例祭〔谷中墓地〕／宗教大会議に柴田氏氣焰を吐く〔郵便報知新聞〕より9月13日「耶穌教に対する日本の真実なる位置」演説)／宣揚社の不親切／みそ、き雑誌内部の改革〔発行人福田長之、編集人中野了隨、原稿校閲加藤

直鐵、會計星野亀吉)／みそ、き愛読者諸君に白す(魯堂居士)／記者も同じく一言／機関新聞発行の事につき(神宮教杖々々 藤井後威)

第48号 1893(明治26)年11月25日発行 38頁

大成教録事 大成教示達〔明治27年1月より各府県下へ監督員巡回布教〕(磯部最信)／教職新補昇級〔高野彦兵衛を権少教正に補任ほか〕

論説 我が神道(中野堂堂)／修道真法略解

教林 大祓俗解(三浦直正)／おはらひ(好盛道人)

演説 天下の人士に告ぐ(木谷寅之助)

寄書 日本人(村越鐵道)／所感(清水鑿)〔『日本之教学』による「三宅島の信仰」に言及〕／原因結果(杉山卯之輔)

漫録 憂己不己知己(魯堂居士)／おそま紀(無学道人)

文苑 (九法竹之助／丹桃蹊／丹歌子／金隆吉／名取太郎平／小幡壮／加藤直鐵／福田長之／村越鐵善／木谷寅之助／村越辰子／清水清／村田鎌吾／片山龍一／高橋幾次郎／村越さく子／前田孝／前田利器／村越鐵道／小松まさ子／前田利邨／磯部最信／小西茂雄／故麻生正守／花薫園蝶遊／あらかねの野夫)

雑報 嗚呼喜ばしひ哉又孝子の出現〔『万朝報』〕／東京監獄本署工場教誨〔今月より毎水曜日に教誨、担当田中一雄〕／禊大教院第拾教院例祭〔上総国鶴枝村台田、鶴岡院長〕／禊教信徒の奇遇〔本所警察署向島州崎町派出所〕／神道小光景〔郵便報知新聞〕より11月賢所遥拜式時の柴田管長談]

第49号 1893(明治26)年12月25日発行 36頁

大成教録事 成甲八号〔政治について心得違いをしないように論達〕、第五十号〔本庁祭典、年賀会、発会式〕、教職新補昇級〔小野又右衛門を権大教正に補任ほか〕

論説 或問一則(大成教々務員某氏)／修道真法略解、破邪事業(磯部武者五郎)

教林 祓ひの事(杉村敬道)／稀世の宝(平野行則)／唯一あるのみ(唯一道人)

演説 伊勢の神風(中野堂堂)

寄書 歳暮の述懐(魯堂居士)／正鐵靈神の親筆(晴耕迂夫)

漫録 羽衣(我善坊散史)／闇夜の灯火序(竹葉舎晋升)

文苑 (萩原宗治／前田利器／正憲／加藤直鐵／金隆吉／原田たけ子／丹桃蹊／丹歌子／村越たつ子／村越鐵道／木谷寅之助／伊藤善守／村越鐵善／小松まさ子／村越さく子／片山龍一／村田謙吾／鶴岡信僖／鶴岡基子／九法竹之助／名取太郎平／築山孝子／佐藤かめを／福田長之／木谷わか子／中野蝶翁／中野瑄子／清水清／高橋敬親／大矢藤右衛門／高橋幾次郎／渡辺楽翠／前田利邨／磯部最信／小西茂雄)／常磐閣正実)

雑報 皇子御降誕／歌御会始御題／貞婦へ賞与／同じく／外人伊勢大廟を拝す／建碑祭文〔秋田県贈大講義松野喜代志君碑〕／禊教大演説会〔1月20日禊教青年会発起〕／平松理英師切支丹を拆く／稟告〔中野

篁堂古本商廃業、当分村越鐵善方へ寄寓]	
<p>第50号 1894 (明治27)年1月25日発行 36頁 大成教録事 教職新補昇級〔小林利平を少教監に補任ほか〕 論説 新年の祝辞(磯部武者五郎)／祭政一致(中野篁堂) 教林 天津祝詞太諄詞(杉村敬道)／誠意(平野行則) 演説 禊の由来(中野篁堂) 寄書 宗教の事に就て(久志本常隨)／純粹の教導(植田勇) 漫録 新年の祝ひことば(福羽よししつ)／試筆(同左) 文苑 (歌御会始24首／前田利鬯／村越鐵善／村越鐵道／木谷寅之助／伊藤善守／大矢藤右衛門／鶴岡信僖／中野蝶翁／片山龍一／高橋幾次郎／高橋敬親／清水清／中野瑇子／村越たつ子／村越さく子／小松まさ子／木谷わか子／九法竹之助／木下方升／丹桃蹊／丹歌子／杉山元治／武田定弘／加藤直鐵／金隆吉／名取太郎平／佐藤かめを／前田利器／福田長之／月の下宗匠／蒼／閑美／花笠／松月／五嶺／梅里／素水／鶴岡基子／杉田謙吾／磯部最信／福羽美静／小西茂雄／植田勇／内田遊歌子／東宮鐵麻呂／あらかねの野夫) 雑報 本部発会式／所属各教会発会式／園田警視總監の謝状〔東京監獄署本署教誨〕／従四位勲四等平山成信君〔貴族院議員勅選〕／井上正鐵実記〔漢文、平松子爵より宮内大臣を経て聖上へ献納〕／禊教拡張大演説会実況</p>	<p>之助／丹桃蹊／鶴岡基子／村越さく子／小松まさ子／名取太郎平／前田孝／丹歌子／柳田茂平／鶴岡信僖／加藤直鐵／齋藤藤吉／植田勇／杉山明彦／太田たけ子／磯部最信／気沈／泰三／月俗／閑美／其昔／つぼみ／南山／開楽／すゝめ／梅里／素水／福羽美静／数井とき女／渡辺長光) 雑報 大成教録事追加〔成乙第二号、祝賀大祭典執行〕／大婚満廿五周年御祝典／禊教青年会の奉祝準備／皇道教会奉遷式〔宇治山田〕／福羽美静先生の教育談／禊教青年会の種痘治療／目出たき親睦会／禊教大演説会入費義捐人名／正誤</p>
<p>第51号 1894 (明治27)年2月25日発行 39頁 大成教録事 内務省訓令第六号〔衆議院議員改選にあたり訓諭〕／成乙第三号〔別項に拡張方法の概略書〕／教職新補昇級〔諏訪忠誠を権大教正に補任ほか〕 論説 銀婚式(中野篁堂) 教林 誠意(平野行則) 演説 世人の盲なるを嘆ず(木谷寅之助)／現日本を論ず(清水鑿) 寄書 法律及教育のみを以て国家を治むべからず(久志本常隨)／神道教を棄て、他に道ありや(植田勇)／有形無形の説(金杉泰助)／離魂病(杉山卯之助)〔本来は演説欄〕 漫録 風俗の鏡(加藤直鐵)／神州男児之本領(三浦直正)／質疑(片山龍一) 文苑 (前田利鬯／清水清／金隆吉／武田定弘／石垣周亮／前田利器／村越たつ子／村越鐵道／金花子／木谷寅</p>	<p>第52号 1894 (明治27)年3月25日発行 38頁 大成教録事 内務省訓令〔懲戒処分はその都度届け出〕／教職新補昇級〔岩崎松斎を少教正に補任ほか〕 論説 国教論(磯部武者五郎) 教林 神の実体(三浦直正) 演説 敢て当局者に告ぐ(村越鐵道) 寄書 警世小言 其一 愛国心／其二 赤心／其三 偽善者(金杉泰助)／寓言(笠原居士)／禊教青年団結の議(中野篁堂)〔大日本禊教青年会は明治16年創立〕 漫録 胸のすゝ掃(清華生) 文苑 (石垣周助／武田定弘／九法竹之助／福島末方／前田利器／清水清／山本金海／丹桃蹊／石垣周助／齋藤藤吉／柳田茂平／中根泰三／加藤直鐵／植田勇／杉山元治／小西茂雄／木谷寅之助／村越さく子／小松まさ子／村田謙吾／鶴岡信僖／鶴岡基子／村越たつ子／丹歌子／小山田いよ子／金隆吉／佐藤かめを／前田孝／津隈南明／村越鐵道／前田利鬯／磯部最信／五嶺／閑美／松月／鱗一／松の家／素水／杉山卯之助／皐蔭鐵鶴／中野篁堂／小松登栄／擊壤庵鼓腹) 雑報 大婚満廿五年御祝典の御模様／大成教祠宇奉祝大祭次第／兩陛下大婚満二十五年祭祝典祝詞〔管長〕／所属各教院教会講社の奉祝祭典式〔禊第二教院、樞原畝傍教会本院〕／大日本禊教青年会員の奉祝式并祝宴／神道六管長の献納品／禊大教院第一教院の献納品／大日本禊教青年会の賀表献納／国風会の唱歌献納〔東宮鐵麻呂・内田遊歌子〕／銀婚式の起原〔広島國學院〕／藤平長九郎氏へ賞状下附／宇都宮監獄署囚徒ノ奇特〔毎月村越大矯正・加藤権大教正派出〕／梅田井上神社大祭／禊教青年会員の梅田參籠</p>

注

- 1 荻原稔『井上正鐵門中・禊教の成立と展開—慎食・調息・信心の教え—』(思想の科学社、2018年)第3章、麻生正一『増補井上正鐵翁在島記』(禊教麻生本院、1890年)附録。
- 2 荻原稔「大成教禊教の成立過程と変遷」(『明治聖徳記念学会紀要』復刊第49号、2012年)212、222頁。前掲同『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』353頁も参照。
- 3 内容のみの利用例としては、小沢三郎『内村鑑三不敬事件』(新教出版社、1961年)が、東大明治文庫所蔵の『みそゝき』第16号からいくつかの内村鑑三不敬事件関係記事を採録している(129、131、190、208、230～231頁)。

- 4 金光図書館での史料閲覧に際しては、金光英子氏、岡田清華氏に大変お世話になった。記して感謝の意を申し上げたい。
- 5 『禊教会雑誌』はルビから「禊教」の読みを確定できるが、『禊教新誌』は不明である。
- 6 1892年4月の『みそゝき』第29号からは1892年3月30日認可とされており、詳細不明。
- 7 この事務所は大成教本部と同住所だが、「禊教総本院」自体は立教地である南足立郡梅島村梅田の井上家（梅田神明宮隣地）に置かれていた。
- 8 前掲麻生正一『増補井上正鐵翁在島記』の売捌所リストには、「東京神田区猿樂町 禊教会雑誌社」が名を連ねている。同書が刊行された9月までの間で発行所に変化があったと思われるが、当該時期の『禊教会雑誌』が未発見のため詳細不明である。
- 9 この箇所は改行前の空白が1文字しかなかったため、闕字か平出か特定できない。
- 10 東宮鐵真呂『東宮千別大人年譜』（同発行、1901年）24頁。
- 11 『禊教会雑誌』第5号（1890年）の巻頭言「親愛なる諸君に告ぐ」には、「禊教団結の実効を奏するは將に近きに在矣」として、「既に明治十六七年の頃より委員てふ者を撰定し」たが「斯に団結を告るは随分気の長い話しなる哉」とあり、ここに至るまで数年を要した当時の状況が言及されている。
- 12 正守か正一のどちらかを誤ったものだが、特定できない。
- 13 木村悠之介「明治後期における神道改革の潮流とその行方―教派神道と『日本主義』から『国家神道』へ―」（『神道文化』第31号、2019年）54頁。
- 14 大成教々務庁『自明治二十六年至明治三十一年 会計報告』（同発行、1899年）4、19頁。木村所蔵。
- 15 同時期の『惟一』『教林』における「近刊雑誌」欄や広告欄には見えない。
- 16 奥武則『蓮門教衰亡史―近代日本民衆宗教の行く末―』（現代企画室、1988年）。また、11月の磯部武者五郎「今後教法の大勢（接第九号）」（『教林』第17号、1894年）7頁には、「余今歳四月以降種々の厄運に遭遇し匆忙日を拂り筆硯を執らざること既に半歳に及び」とある。
- 17 明治文庫が第1～5、7～10号を、木村が第1、3、4、6～10号を所蔵している。
- 18 無窮会図書館は『禊教青年会会報』なる雑誌を所蔵しており、『禊教青年会雑誌』現物の可能性もあるが、休館中のため調査できなかった。
- 19 木谷は、本荘家の邸内にあった河田町美曾岐教会（後に移転して中野美曾岐教会）の教師であり、川尻の『梨子の御文』（1908年）の発行人であった。大正年間には、三田村と共に東大の学生たちが設立した一九会道場の指導にもあたった（『一九会道場八十年史』2001年）。
- 20 清水禎文「地方教育会の成立事情―群馬県における自由民権運動と教育関係者たち―」（『東北大学大学院教育学研究科年報』第55集第1号、2006年）2頁。
- 21 今は遺族により改葬されて存在しないが、かつては葛飾区浄光寺に種子の墓碑があり、「明治廿二己丑年十二月十八日帰天 行年三十六歳／中野鐵翁眞人 配種子刀自／大教正村越鐵善之長女也始嫁高橋清兵衛生長男孝親襁褓中夫清兵衛病死依而養男幾次郎為嗣矣後更適中野葦堂亦生一男即篁之助是也終罹病而没焉」と記されていた（1985年12月萩原調査）。民権運動の同志であった前夫・高橋清兵衛の没後から種子自身の死没まで、極めて短い期間ではあるが中野が妻に迎えていたものと思われる。
- 22 川尻義祐の子・清潭は、「明治廿一年でしたか、元地即ち浅草猿若町の市村座が再築の開場式の芝居に、座頭の団十郎の希望で亡父の作『萬世薫梅田神垣』を『新開場梅田神垣』と改題して上演することになったのは、一面に神教の信徒を集める興行主の計画でもあつたのでせうけれども、主演者の団十郎は劇に多大の興味を以て、殊に三宅島千都山嶺に主役の正鐵が雨乞の場面は、三七日の断食に身心疲労した有様と、祈りの声音の末枯れた調子のうまさは、全く非凡の出来栄えと伝えられたのですが、宗教劇の事として一般の評判はおもはしからず舞納めたものゝ、素人作者の亡父としては団十郎が気を入れて勤めてくれた事だけでも、充分の満足を感じてゐたのは事実でした。」と述べている（川尻清潭「亡父川尻宝岑の事ども一素人の書いた上演脚本」、『芸術殿』第2巻第10号、1932年、44～45頁）。
- 23 前掲萩原稔『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』370頁。

- 24 鈴木防人編『鈴木真年伝』（同発行、1943年）39頁。この安西一方は男也の甥であり、法子の養父にあたる。同書は鈴木が1858年に御嶽教へ入門し権大教正になったとするが、『みそ、き』で1893年に大成教の権大教正補任の記事がある以上（第43号）、三浦知善による安政期の復興を受けて禊教に入門し、その縁で信子と結婚したと考えるのが妥当で、御嶽教とするのは御嶽教会が大成教会の傘下だったことがあるがゆえの取り違えだろう。
- 25 第1次『会通雑誌』の号数を引き継いだ『隨在天神』とは別に、会通社が改めて発行したが、すぐに廃刊となった。明治文庫に第1～6号がある。
- 26 前掲木村悠之介「明治後期における神道改革の潮流とその行方」75頁。
- 27 「神道国家」は第42号のみ「神道国学」となっている。前者が正しいのだろう。
- 28 嶋田由美「菟道春千代による唱歌集編纂活動に関する研究」（『大阪女子短期大学紀要』第26号、2001年）。
- 29 佐藤信「明治期の食育運動—『食養新聞』と帝国食育会—」（『北海学園大学経済論集』第57巻第3号、2009年）。
- 30 前掲麻生正一『増補井上正鐵翁在島記』附録。
- 31 20歳の時（1862年）には禊教に入門している（川尻清潭「川尻宝岑」、『演劇百科大事典』第2巻、平凡社、1960年、141頁）。
- 32 前掲奥武則『蓮門教衰亡史』71～83頁など。
- 33 井上正鐵は、弘化2年（1845）に遠島先の三宅島から、行法の主宰教師である「産靈役」に新規に任命された「初産靈^{ういむすび}」に対して、「産靈之伝」三か条を授与すると指示した。その三か条の筆頭が「神水の事」であり、その伝書本文と作法の解説である「神水製法式」の写本が存在する（前掲萩原稔『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』122～126頁）。そして、明治になっても消滅することなく、大成教禊教に伝承されていたことは、1913年に横尾信幸が書いた伝書写本が磐田市の大成教唯一禊教に存在していたことから確実である（1990年3月、萩原調査）。
- 34 社会的養護第三者評価等推進研究会監修『児童自立支援施設運営ハンドブック』（厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課、2014年）15頁など。
- 35 「市史こぼれ話[㊦] 神道「大政教」」（八日市場市公報『ようかいちば』1999年3月号）には、この架橋事業に対して大成教管長からの表彰状が贈られたことが紹介されている。現地の鈴木家に存在した表彰状には日付が欠損していたが（1998年6月萩原調査）、この『みそ、き』第25号の記事により、1891年のことであると判明した。
- 36 藤本頼生『神道と社会事業の近代史』（弘文堂、2009年）325～331、352～353頁。
- 37 同月5日発行の磯部武者五郎「西蔵刺麻教一班」（『日本之教学』第28号、1889年）が管見では最も早い。同史料は星野靖二氏のご教示による。記して感謝の意を申し上げたい。
- 38 中部社会事業短期大学『輝く奉仕者 近代社会事業功労者伝』（近代社会事業功労者伝刊行会、1955年）7頁には、「明治三十六年二月、現校主平山成信の発議で設立した。大正七年末児童一七七名、附近の細民子女を通学せしめ、授業料を徴収せず学用品を給与した」とある。なお、校名の「素山」は平山省斎の号のひとつであり、諡号も「素山彦弘道命」とされた。
- 39 半田竜介「丸山作樂の神祇官論について—雑誌『隨在天神』に注目して—」（『明治聖徳記念学会紀要』復刊第53号、2016年）179～182頁。
- 40 金光教徒社編『金光教における文書布教九十年—金光教徒社のあゆみを中心として—』（同発行、1963年）、早田一郎『天理教文献余話』（天理大学附属おやさと研究所、2010年）。
- 41 前掲萩原稔『井上正鐵門中・禊教の成立と展開』第3章第3節、武田幸也『近代の神宮と教化活動』（弘文堂、2018年）228、271頁など。
- 42 今井功一「富士講系教派神道・實行教の雑誌刊行—實行教本館内惟一社『惟一』目次」（『書物・出版と社会変容』第21号、2018年）。
- 43 今井功一氏のご教示による。記して感謝の意を申し上げたい。

- 44 前掲今井功一「富士講系教派神道・實行教の雑誌刊行」69～71頁。
- 45 明治文庫の宮武外骨蒐集資料に12月刊行の第3号が入っている (<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/assets/d2fdd9b5-22ef-a5a5-43ca-38a726e84c2c>)。
- 46 久米邦武筆禍事件をめぐる教派神道関係者の反応を窺える点でも『みそ、き』は有用だが、この点については別稿で詳論したい。
- 47 森孝一「シカゴ万国宗教会議：1893年」（『同志社アメリカ研究』第26号、1990年）6頁。柴田の参加自体については三ツ松誠が、納富介次郎（礼一の弟）の海外経験を要因として推測している（三ツ松誠編『花守と介次郎 明治を担った小城の人びと』佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2016年、251頁）。また、柴田自身は1880年ごろに宗教会議を希望する考えを発表したと回顧しており、1887年の『日本之教学』第2号には柴田礼一「世界教法家の親睦会を望む」が『神教々報』なる雑誌（未詳）から転載されている。
- 48 井上順孝『教派神道の形成』（弘文堂、1991年）124～125、305頁。
- 49 神官教導職分離の直後に出た『大成教誌』の場合は、「宗教」が同様の役割を果たしていたようである（無記名「例言」、『大成教誌』第3号、1882年）。
- 50 視教会以外の大成教教会では、1893年に山形県の言寿教会で『言寿の友』が発刊され、磯部武者五郎が寄稿している。また、蓮門教からは『教誨』が出ていたという（前掲木村悠之介「明治後期における神道改革の潮流とその行方」54頁。典拠とした『惟一』記事には『教誨』とあるが、上記論文では誌名を『教誨』と誤記した。訂正しお詫び申し上げたい。ただし、『惟一』における他の号の新刊紹介欄では実際に『教誨』と記したものもあり、なお調査が必要である）。
- 51 小中村義象「古典学革弊私論」（『東洋学会雑誌』第4号、1887年）8～11頁、久米邦武「住吉社は委奴国の祖神」（『久米邦武歴史著作集』第2巻、吉川弘文館、1989年）60頁など。
- 52 加藤弘之「神道を宗教外に置くの可否」（『速記雑誌』第12号、1890年）552頁。1890年11月2日の「学理議会」における発言で、磯部は新聞により内容を知ったようだが、磯部が言及しているほど詳細に報道した新聞はまだ見つけられていない。
- 53 少し前に磯部は国学系の『明治会叢誌』で、山崎泰輔という人物が「国家的神道」の立場から行った「宗教的神道」批判に対し、教会制度の「改革」や教理への「哲学」による基礎づけを論じるなかで、「神道教は只僅に下等社会に「トホカミエミタメ」の声を聴くのみならず、上等社会の人心をも結集せるに至らんこと必せり」と主張している（磯部武者五郎「山崎氏の神道論を読む」、『明治会叢誌』第20号、1890年）。これも別稿で触れたい。
- 54 『神道興教論』の再版に際し井上の談話筆記を載せる予定もあった（第41号）。
- 55 磯部武者五郎「拒_レ外教_ニ議」（『日本国教大道叢誌』第44号、1892年）16頁。キリスト教は君主独裁に似た「圧制教」であり、神仏は「立憲の代議政体」だという議論。1891年10月に、キリスト教を「圧制政府」、多神教としての神道を「立憲政体」に喩えた井上哲次郎講演「神道論」（『神道』第5号、1891年）15～16頁が出ており、それを受けて変更した可能性もある。
- 56 前掲木村悠之介「明治後期における神道改革の潮流とその行方」。
- 57 同上、68、75頁など。
- 58 無記名「神道学術講談会景況」（『教林』第61号、1898年）。佐伯有義・田中一雄・磯部・宮地巖夫・石塚左玄が登壇した。
- 59 東京市社会局『東京社会事業名鑑』（同発行、1920年）132頁、福田須美子「平山成信と素山学校一すべての子どもに学校教育を一」（『子ども教育研究』第11号、2019年）56～57頁。
- 60 前掲井上順孝『教派神道の形成』323～325頁。

付記

本研究はJSPS科研費JP20J20683の助成を受けたものである。